平成24年度（第56回）
岩手県教育研究発表会資料

特別支援教育

小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する研究

―通知票等と連動した個別の指導計画の作成・活用の実践を通して―

≪研究協力校≫
盛岡市立仁王小学校
盛岡市立上田中学校

平成25年2月15日

岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当
木村　史彦
佐々木　恵理子
森　和佳子
島香　実
佐々木　一義
最上　一郎
大谷　哲弘
高橋　雅恵
五安城　正敏

≪目　次≫

Ⅰ　研究目的 ･･･ 1
Ⅱ　研究内容と方法 ･･･ 1
　1　研究の目標 ･･･ 1
　2　研究内容と方法 ･･･ 1
　3　研究協力校 ･･･ 1
Ⅲ　研究結果の分析と考察 ･･･ 2
　1　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想 ･････････････ 2
　(1)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の基本的な考え方 ･････････････････ 2
　(2)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の課題 ･････････････････････････ 4
　(3)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に必要な作成面
　　・活用面への取組 ･･･ 7
　(4)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想図 ････････10
　2　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」(試案) ･････････････････････11
　(1)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」(試案）の作成 ･････････････11
　(2)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」(試案）の修正計画 ････････21
　3　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」(試案）を用いた,
　　通知票等と連動した個別の指導計画の作成・活用の実践 ･････････････････････････22
　(1)　実践の概要 ･･･22
　(2)　盛岡市立仁王小学校における実践 ･･･22
　(3)　盛岡市立上田中学校における実践 ･･･27
　(4)　アンケート調査 ･･･30
　4　実践結果の分析と考察 ･･･ 35
　(1)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」(試案）の
　　修正・改善の視点 ･･･35
　(2)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」の内容 ･･････････････････36
　5　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関するまとめ ･･････････････39
　(1)　成果 ･･･39
　(2)　課題 ･･･39
Ⅳ　研究のまとめ ･･･39
　1　研究の成果 ･･･39
　2　今後の課題 ･･･40

＜おわりに＞
【引用文献】
【引用Webページ】
【参考文献】

Ⅰ　研究目的

個別の指導計画とは，一人一人の障がいの状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう，教育課程等を踏まえて，より具体的に一人一人の教育的ニーズに対応した指導目標や指導内容，支援方法等を盛り込んだ計画である。また，交流学級担任や保護者，隣接校種等と情報を共有しながら，個別の指導計画を作成・活用し，一貫性や継続性のある指導と支援の実現，学習活動の状況や結果を適切に評価した上での指導と支援の改善につなげていくものである。特別支援教育担当経験年数３年未満の担任が過半数である県内の特別支援学級においても，個別の指導計画を児童生徒一人一人に作成し，きめ細かな指導が行えるよう取り組んでいる。

しかし，県内特別支援学級の個別の指導計画の現状を見てみると，在籍している児童生徒の多様な実態や学習の取組と合わない様式を使用している場合がある。また，特別な教育課程を踏まえた指導目標や指導内容，支援方法等が適切に設定されていなかったり，個別の指導計画や通知票，指導要録それぞれの観点や内容が異なっていたりするなどの作成面における課題がある。さらには，個別の指導計画に基づいた指導と評価や，交流学級担任や保護者等との情報の共有が十分になされていないなどの活用面における課題もある。これらは，小・中学校特別支援学級の教育課程や一人一人の教育的ニーズ，個別の指導計画と通知票等との関連などについて整理されないまま，個別の指導計画を作成・活用していることが要因であると考えられる。

このような状況を改善するためには，小・中学校特別支援学級の教育課程を踏まえ，通知票等と連動した個別の指導計画の様式，指導目標や指導内容，支援方法等の記述に当たっての留意事項等について，実践を通して明らかにしていくことが必要である。さらには，個別の指導計画に基づいた指導と評価，交流学級担任や保護者等と情報を共有していく手順や留意事項等についても，実践を通して明らかにしていくことが必要である。

そこで，本研究は，小・中学校特別支援学級において，通知票等と連動した個別の指導計画を作成面・活用面からその要件を探り,実践を通して個別の指導計画の改善につなげていくものである。また，研究成果物として資料にまとめ，小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に役立てる。

Ⅱ　研究の内容と方法

１　研究の目標

小・中学校特別支援学級において，通知票等と連動した個別の指導計画を作成面・活用面からその要件を探り，実践を通して個別の指導計画を改善する。

また，研究の成果を「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」にまとめ，各学級における個別の指導計画の作成・活用の改善に役立てる。

２　研究の内容と方法

(1)　研究の基本構想の立案（文献法）
(2)　手立ての試案の作成
(3)　実践
(4)　実践結果の分析と考察（質問紙法，記録法）
(5)　研究のまとめ

３　研究協力校

盛岡市立仁王小学校
盛岡市立上田中学校

Ⅲ　研究結果の分析と考察

１　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想

(1)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の基本的な考え方

ア　個別の指導計画

個別の指導計画とは，幼児児童生徒一人一人の障がいの状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう，学校における教育課程や指導計画等を踏まえて，より具体的に一人一人の教育的ニーズに対応した指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ計画である。

これまでの特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では，自立活動と重複障がいのある児童生徒の指導に際して，個別の指導計画の作成が義務付けられていた。平成21年に告示された特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では，個別の指導計画の作成についての扱いが見直され，各教科等の指導に当たっても，個々の児童生徒の実態を的確に把握し，個別の指導計画を作成することや，個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し，指導の改善に努めることが示された。

また，平成20年に告示された小学校学習指導要領や中学校学習指導要領においては，必要に応じて個別の指導計画を作成するなどして，個々の児童生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し，適切な指導を計画的，組織的に行うことが示されている。

これらのことから，小・中学校特別支援学級においても，個々の児童生徒の実態を的確に把握し，教育活動を実施する上での指導内容等を，個別の指導計画として具現化することが大切である。そして，各教職員が，個別の指導計画を通して共通理解を図りながら，一人一人に応じた指導と支援を進め，計画－実践－評価－改善の過程を通して，適切な指導と必要な支援の実現に向けていかなければならないものである。

イ　小・中学校特別支援学級の教育課程と個別の指導計画

小・中学校特別支援学級は，特別支援学校に比べ障がいの程度が軽く，しかも通常の学級における指導では十分な成果をあげることが困難な児童生徒を対象とした学級であり，県内においては，各障がい種別特別支援学級が設置されている。その中でも，県内においては知的障がい特別支援学級が全体の約６割と最も多く設置されている。

小・中学校特別支援学級においては，学校教育法施行規則第138条により，小・中学校の通常の教育課程の指導内容の分類に準ずるが，特に必要がある場合には，特別の教育課程を編成することができるとされている。(【資料１】)

【資料１】小・中学校特別支援学級における特別の教育課程

- 各教科の目標や内容の一部を取り扱わないことができる。
- 各教科を特別支援学校の各教科に替えることができる。
- 各教科の内容の全部又は一部を，下の学年の目標や内容に替えることができる。
- 知的障がいあるいは重複障がいの子どもを教育する場合には，必要に応じ，各教科，道徳，特別活動及び自立活動を合わせて指導することができる。
- 学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした自立活動を取り入れることができる。

これらのことから，小・中学校特別支援学級においては，一人一人の教育的ニーズを把握し，どのような教育課程が，在籍する児童生徒の教育目標を達成するために望ましいのかを十分に検討することが必要である。その上で，一人一人の指導目標や指導内容を，小学校学習指導要領や中学校学習指導要領，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を踏まえて明らかにするとともに，交流及び共同学習などの視点も盛り込みながら，何の指導形態でどの

ような指導目標や指導内容を指導・支援していくのかを明確にしていくことが大切である。そのためにも，個別の指導計画の果たす役割は大きいものである。

ウ　小・中学校特別支援学級の通知票等と個別の指導計画

通常の教育においては，指導要録に記載する事項をもとに通知票の項目を設定している場合がある。これは，学習評価において観点別評価に基づいて行っているということや，指導要録を作成する際に通知票を活用していることなどの理由からであろう。ただし，通知票と指導要録には法的な取扱いの違いと機能上の違いがあるということは十分に理解しておく必要がある。(【表１】)

【表１】学習指導要領・指導要録・評価規準・通知票について

区分	法的な性格と内容	作成主体	文部科学省の関与
学習指導要領	・「学校の教科に関する事項は、文部科学大臣が定める」との学校教育法や学校教育法施行規則（省令）の規定を受け、制定されている、学校の教育課程の大綱的な基準（文部科学大臣告示）。各教科等の目標や内容を定める。	・文部科学大臣	・文部科学大臣が作成。
指導要録	・在学する児童・生徒の学習及び健康の状態を記録した書類の原本。学校に作成・保管義務（学校教育法施行規則、保管は原則5年。学籍に関する記録は20年）。	・指導要録の様式を定めるのは設置者の教育委員会（地教行法）。 ・作成は校長の権限。	・文部科学省は学習指導要領の改訂ごとにその趣旨を踏まえた「指導要録の様式の参考案」を提示。 ・あくまでも「参考案」。ただし、転出入児童・生徒の便宜等の観点から多くの自治体で参考例をもとに様式を作成。
評価規準	・指導要録における評価の規準（ものさし）。法的な根拠はなし。	・作成、内容等はすべて校長の裁量。	・国立教育政策研究所で各学校における規準作成のための参考資料を作成。
通知票	・保護者に対して子どもの学習指導の状況を連絡し、家庭の理解や協力を求める目的で作成。法的な根拠はなし。	・作成、様式、内容等はすべて校長の裁量。 ・自治体によっては校長会等で様式の参考例を作成している場合も。	・なし。

平成22年５月の文部科学省による学習評価及び指導要録の改善等についての通知（22文科初第１号）では，学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価すること，目標に準拠した評価を引き続き着実に実施することが明記されている。また，障がいのある児童生徒に係る学習評価の考え方として，障がいのない児童生徒に対する学習評価の考え方と基本的に変わるものではないものとし，児童生徒の障がいの状態等を十分理解しつつ，様々な方法を用いて，一人一人の学習状況を一層丁寧に把握することが必要であるとしている。さらには，平成21年に告示された特別支援学校小学部・中学部学習指導要領においては，より一層，個々の児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じた指導がなされるよう，各教科だけではなく，領域・教科を合わせた指導を行う際にも，具体的な指導内容を設定する必要があることを示している。

これらのことから，小・中学校特別支援学級では，個別の指導計画において，一人一人の教育的ニーズに対応した教科等の指導目標や指導内容を設定した上で，指導の形態ごとの一人一人の学習状況を把握しながら学習評価を行い，個別の指導計画や通知票を通じて保護者と情報を共有したり，指導要録に記録したりしていくことが大切である。

(2)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の課題

ア　特別支援学級の現状から

国立特別支援教育総合研究所が平成20年度に実施した「全国知的障害特別支援学級実態調査」によると，自閉症のある児童生徒が知的障がい特別支援学級に在籍している学校の割合は，小・中学校ともに50％を超えている。さらに，自閉症の児童生徒の状態像を見ていくと，小・中学校ともに知的発達の遅れの程度が軽度である児童生徒が約30％，中度・重度である児童生徒が小学校では約26％，中学校では約16％在籍している。その他，知的発達の程度が標準でかつ適応行動に支援を必要としない児童生徒が約２％在籍している現状も明らかになっている。同調査によると，教育課程編成上の課題として「在籍児童生徒の知的障がいの状態への違いの対応」を小・中学校の特別支援学級ともに最も多く挙げており，次いで，小学校では「他学年にわたる在籍児童生徒への対応」，中学校では「指導内容・方法の設定」を挙げている。(【表２】)

【表２】教育課程編成上の課題

選択項目	小学校数：2398	中学校数：1144
在籍児童生徒の実態把握	72（ 3.0%）	50（ 4.4%）
他学年にわたる在籍児童生徒への対応	389（16.2%）	142（12.4%）
在籍児童生徒の知的障害の状態の違いへの対応	484（20.2%）	243（21.2%）
指導目標の設定	52（ 2.2%）	39（ 3.4%）
指導内容・方法の設定	274（11.4%）	146（12.8%）
評価の方法	49（ 2.0%）	48（ 4.2%）
週日課の編成	170（ 7.1%）	58（ 5.1%）
交流及び共同学習の実施	287（12.0%）	126（11.0%）
学校行事への参加	89（ 3.7%）	58（ 5.1%）
個別指導やグループ別指導等の指導体制	227（ 9.5%）	84（ 7.3%）
学習の場やスペースの確保	126（ 5.3%）	64（ 5.6%）
教育課程を編成する上で参考となる資料の不足	131（ 5.5%）	58（ 5.1%）
その他	48（ 2.0%）	28（ 2.4%）

以上の結果から，小・中学校特別支援学級においては，通常の学級での指導が適当と想定される児童生徒から，特別支援学校での指導が適当と想定される児童生徒まで障がいの状態等が幅広く，指導内容や支援方法も多岐に及んでいることが推察される。また，通常の学級と異なって複数の学年の児童生徒が在籍していることも課題の要因であるものと推察される。

これらのことから，小・中学校特別支援学級に在籍している多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画や通知票の様式，活用方法を示していくことが必要であると考える。

イ　特別支援学級担当者の現状から

「小・中学校特別支援学級（知的障がい）における領域・教科を合わせた指導の充実に関する研究」(2011）によると，特別支援教育の経験が３年未満の県内特別支援学級担当者の割合は，小学校で51.0％，中学校で64.1％であった。また，文部科学省の調査（2011）によると，全国の小・中学校特別支援学級担当教員で，小・中学校教諭免許状に加え，特別支援学校教諭免許状を保有している割合は，約３割であり，小・中学校ともに特別支援学級担当者の特別支援教育に関する専門性は，決して高いものではないということが推察される。(【表３】)

【表３】特別支援学級担当教員の特別支援学校教諭免許状保有率

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
小学校	33.3%	33.0%	32.8%
中学校	27.9%	27.4%	27.0%
合計	31.6%	31.3%	31.0%

以上の結果から，小・中学校特別支援学級に在籍する児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程を編成することは，小・中学校特別支援学級担当者にとって困難であろうことが推察される。このことは，先に示した「全国知的障害特別支援学級実態調査」における国立特別支援教育総合研究所による総合考察（【資料２】）にも示されている。

【資料２】全国知的障害特別支援学級実態調査における総合考察　※一部抜粋

> 調査では，領域・教科を合わせた指導の実施有無を回答するにあたり，代表的な指導の形態を例示しているにもかかわらず，実施内容の位置付けについては，「自立活動」「国語」「算数」「道徳」「総合学習」といった記述が多く見られ，「不明」として扱っている。
>
> ～　中　略　～
>
> 特別支援学級では小・中学校の教員免許によって担当することは可能であるが，特に近年の知的障害特別支援学級の急増によって，特別支援学校教員免許を所有する教員が特別支援学級を担当する割合が低くなっていると推察される。したがって，担当教員の専門性をいかに担保していくのかが大きな課題と思われる。

また，特別な教育課程を編成することが困難であろうことから，一人一人の指導目標や指導内容等が適切に設定されていないことや，個別の指導計画や通知票，指導要録それぞれの観点や内容が異なっていることなどについても危惧される。

これらのことから，個別の指導計画を作成するに当たって，小・中学校特別支援学級の教育課程を踏まえながら，指導目標や指導内容，支援方法等を設定することや，設定するに当たっての留意事項等について示していくことが必要であると考える。

ウ　小・中学校特別支援学級における通知票及び個別の指導計画に関する調査結果から

(ｱ)　調査の目的

小・中学校特別支援学級の通知票や個別の指導計画の現状と課題の傾向をとらえる。

(ｲ)　調査の対象と回収率

特別支援学級の学級づくり研修講座研修者

回収率：小学校特別支援学級担当者11名（100％），中学校特別支援学級担当者７名（100％）

(ｳ)　調査項目

調査項目は，以下の通りである。

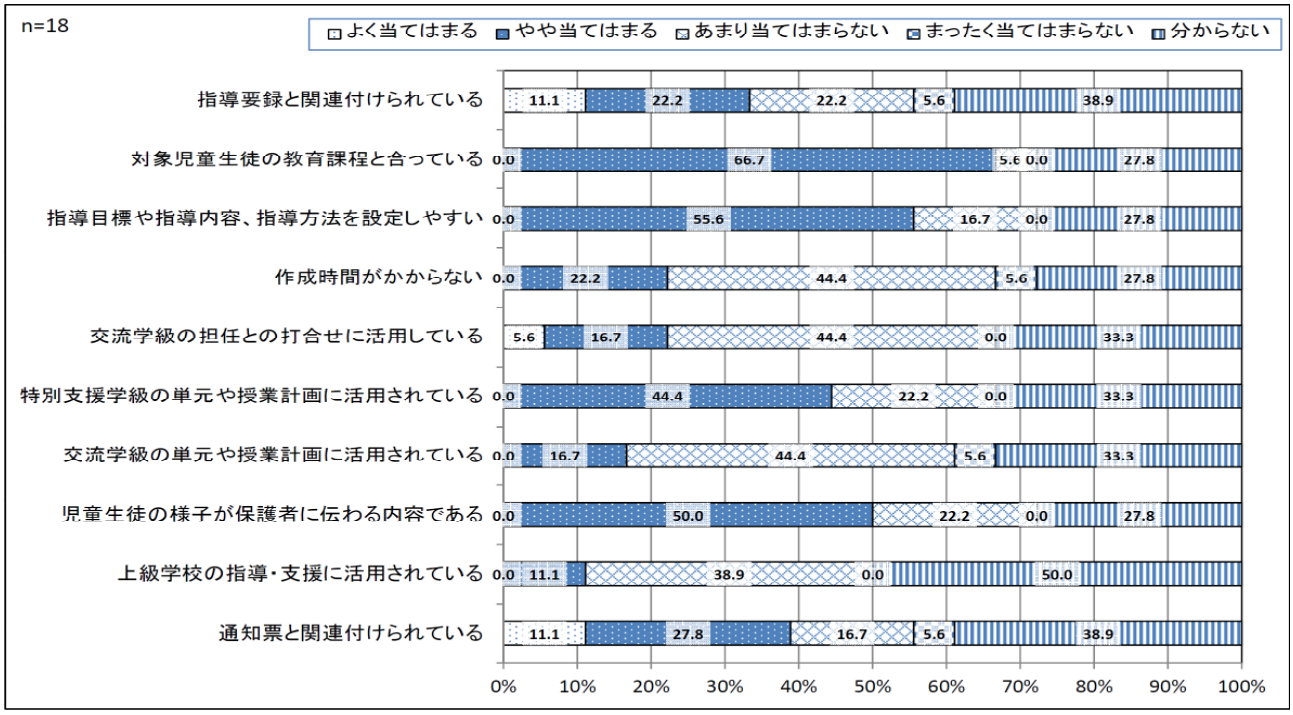
【表４】調査項目

設　問	項　目
問　１	個別の指導計画について
問　２	通知票について
問　３	個別の指導計画や通知票を作成・活用する上での課題について（自由記述）

(ｴ)　調査時期

平成24年４月20日（金）

(ｵ)　調査結果と考察

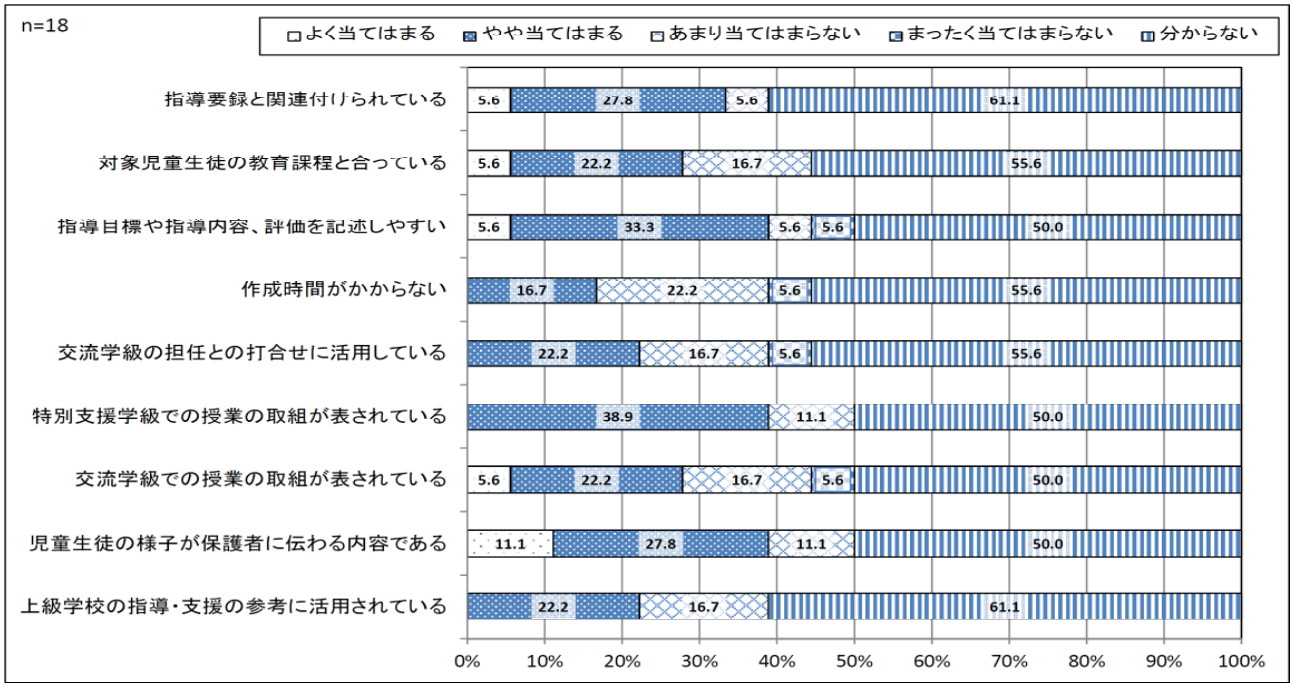


【図１】個別の指導計画に関する質問についての回答状況

対象児童生徒の教育課程と合っているかどうかについて，「よく当てはまる」，「やや当てはまる」と解答した割合を合わせると，66.7%となっている。しかしながら，特別支援学級や交流学級の単元や授業計画に活用されていると回答した割合は決して高いものではない。

また，個別の指導計画を，通知票や指導要録と関連付けられている割合も高くはなく，個別の指導計画における評価が何にどのように活用されているか課題が残る結果となった。

さらには，交流学級担任や上級学校との情報の共有に活用されていない現状，個別の指導計画の作成に時間をとられていると感じている現状もうかがえる結果となった。



【図２】通知票に関する質問についての回答状況

すべての問いにおいて，「わからない」と回答している割合が半数を超えている。これは，調査実施時期が４月であり，特別支援学級の通知票を検討する時期の前であったという理由が大きいものと考えられる。ただし，作業時間についての否定的な回答が多く，個別の指導計画の作成に加えて，通知票や指導要録と作成するものが多い学校現場の状況を表している結果であろうと考える。

設問３による，個別の指導計画や通知票を作成・活用する上で課題と感じていることについての自由記述の主なものは，以下の通りである。

▲初めて担任になった人への引き継ぎや説明が不足しているため，まだ分からない状態

▲作成に時間がかかり，日常あまりうまく活用されていない

▲生徒が普通高校受検を希望した場合，教科の評価や評定が難しい

▲昨年度の個別の指導計画も通知票もなかった

▲指導計画も通知票もまだ作成していない

▲通知票は６月に検討予定

▲児童の実態と指導計画にズレを感じる

▲児童の実態から知識の部分を他の児童と同様の観点で評価できるものがよいか検討したい

特別支援学級の個別の指導計画や通知票の作成や活用について，見通しをもつことができていない，あるいは，改善していきたくてもどのように改善すればよいのかが分からないとする回答が多かった。

また，児童生徒によっては，普通高校受験を視野に入れていることもあり，通常の学級の通知票と関連性をもたせた個別の指導計画についても今後検討していかなければならないものと考える。

なお，これまでの児童生徒の学習・生活の様子について，適切に引継ぎがなされていない場合もあることがうかがわれた。

以上の結果から，個別の指導計画に基づいた指導と評価や，交流学級担任や保護者等との共有が十分になされていないことが推察される。また，個別の指導計画と通知票，指導要録それぞれの内容と機能を理解しながら作成することができていなく，特別支援学級担当者が思い描く観点や内容で，別々に記述するために，作成・活用する上で混乱や煩雑さを感じているものと推察される。

これらのことから，個別の指導計画に基づいた指導と評価，交流学級担任や保護者等と情報を共有していく手順や留意事項について示していくことが必要であると考える。また，通知票や指導要録の内容や機能を理解した上で連動した個別の指導計画の様式を示していくことが必要であると考える。

(3)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に必要な作成面・活用面への取組

ア　作成面への取組

(ｱ)　多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の様式

小・中学校特別支援学級においては，障がいの状態等が幅広く，指導内容や支援方法も多岐に及んでいる児童生徒が在籍している。また，複数の学年の児童生徒が在籍している場合も少なくない。そのため，ある学級では，多くの時間を特別支援学級で学習する児童生徒もいれば，交流学級での教科等の学習に多く取り組んでいる児童生徒もいる。したがって，一人一人の教育的ニーズに対応した教科等の指導目標や指導内容を設定した上で，どのような

指導形態で指導・支援するかを計画立てていくことが必要である。そして，それぞれの指導形態において一人一人の学習状況を把握しながら学習評価を行っていくことが大切である。それを可能にするのが，個別の指導計画である。

したがって，小・中学校特別支援学級の個別の指導計画や通知票を考える上で，固定化されたある一つの様式といったものは，現実的でない。むしろ，小・中学校特別支援学級に在籍している多様な児童生徒の教育的ニーズや，指導目標，指導内容，指導形態に即しながら，個別の指導計画を組み合わせて作成することができるような様式を示すことが必要である。

(ｲ) 通知票等と連動した個別の指導計画の様式

小・中学校特別支援学級においては，一人一人の教育的ニーズに対応した指導目標や指導内容を設定し，指導形態ごとの学習状況を把握しながら学習評価を行い，個別の指導計画や通知票を通じて保護者と情報を共有したり，指導要録に記録したりしていくことが大切である。一方では，特別支援学級担当者が，個別の指導計画と通知票，指導要録それぞれの内容と機能を理解しながら作成することができていなく，作成・活用する上で混乱や煩雑さを感じていたり，学習評価を通じて学習指導の在り方を見直すことや，個に応じた指導の充実につながっていなかったりする場合もある。

したがって，個別の指導計画と通知票，指導要録それぞれの内容と機能を整理し，通知票や指導要録と連動した個別の指導計画の様式を示すことが必要である。個別の指導計画を作成・活用することによって個に応じた指導の充実や学習評価につながり，それを通知票に記録して保護者と情報を共有することや，指導要録へと反映することができるものと考える。

(ｳ) 指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項

小・中学校特別支援学級において，特別の教育課程を編成する場合，特別支援学校の学習指導要領を参考にする場合が多い。特にも知的障がいのある児童生徒の場合は，領域・教科を合わせた指導を取り入れるなどして，生活に結び付いた実際的・具体的な活動を展開することが必要であることから，特別支援学校（知的障がい）における教育課程の構造を十分に理解しておくことが望まれる。また，障がいの状態等や学年に幅がある特別支援学級においては，在籍学年に止まることのない教科の系統性についても十分に理解しておくことが望まれる。しかしながら，特別支援学級担当者の特別支援教育の経験年数や，特別支援学校教諭免許状の保有状況を踏まえると，これらの内容を十分に理解した上で指導目標や指導内容を設定し，何の指導形態でどのような指導目標や指導内容を指導・支援していくのかを明確にしていくことは困難なことである。

したがって，個別の指導計画の作成を通して，小学校学習指導要領や中学校学習指導要領，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を踏まえて指導目標や指導内容を設定することができるような手立てを講じることが必要であると考える。そのためには，これらの学習指導要領を踏まえた個別の指導計画の様式や，指導目標や指導内容，支援方法を設定するに当たっての留意事項について示すことが必要である。

(ｴ) ディジタルデータを用いた効率的な作成と記録の蓄積

小・中学校特別支援学級担当者は，通常の学級事務や校務分掌，学期末や年度末における通知票や指導要録の作成，そして，何よりも在籍する児童生徒へのきめ細かな指導・支援，そのための準備など，限られた時間で最大限の取組をしている。それに加えて，個別の指導計画の作成・活用を充実させていくということは，困難なことであるのかもしれない。

平成22年５月の文部科学省による学習評価及び指導要録の改善等についての通知（22文科初第１号）では，効果的・効率的な学習評価の推進についてとして，学習評価に関する情報の適切な管理を図りつつ，情報通信技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であり，このことは現行の制度上も可能であることを示している。

したがって，個別の指導計画の作成に当たって，通知票等と連動させながらディジタルデータを用いた効率的な作成や活用，記録の蓄積ができるような様式を示すことが必要である。このことにより，個別の指導計画を作成することへの負担の軽減，学習指導や学習評価への効果的な反映や負担の軽減を図ることができるものと考える。

イ　活用面への取組

(ｱ)　個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項

個々の児童生徒の実態を的確に把握し，教育活動を実施する上での指導内容等を，個別の指導計画の作成を通して具現化すること，そして，それを計画－実践－評価－改善のサイクルで活用していくことが大切である。そのためには，どのような時期に，どのような手順で作成するのかを明確にしておくことが必要である。そして，個別の指導計画をそれぞれの指導形態の中でどのように指導・支援に生かしていくのか，どのように評価－改善につなげていくのかについても明確にしておくことが必要である。

したがって，個別の指導計画を作成・活用するに当たって，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項について理解しながら進めることができる資料を示す事が必要である。

(ｲ)　交流学級担任や保護者等との情報共有の方法やその具体

当センター特別支援教育担当による「小学校通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童への支援の在り方に関する研究－校内での共通理解を促すための研修資料集の作成をとおして－」（2010）では，特別支援教育を推進していくための視点【資料３】を示した。

【資料３】特別支援教育を推進していくための５つの視点

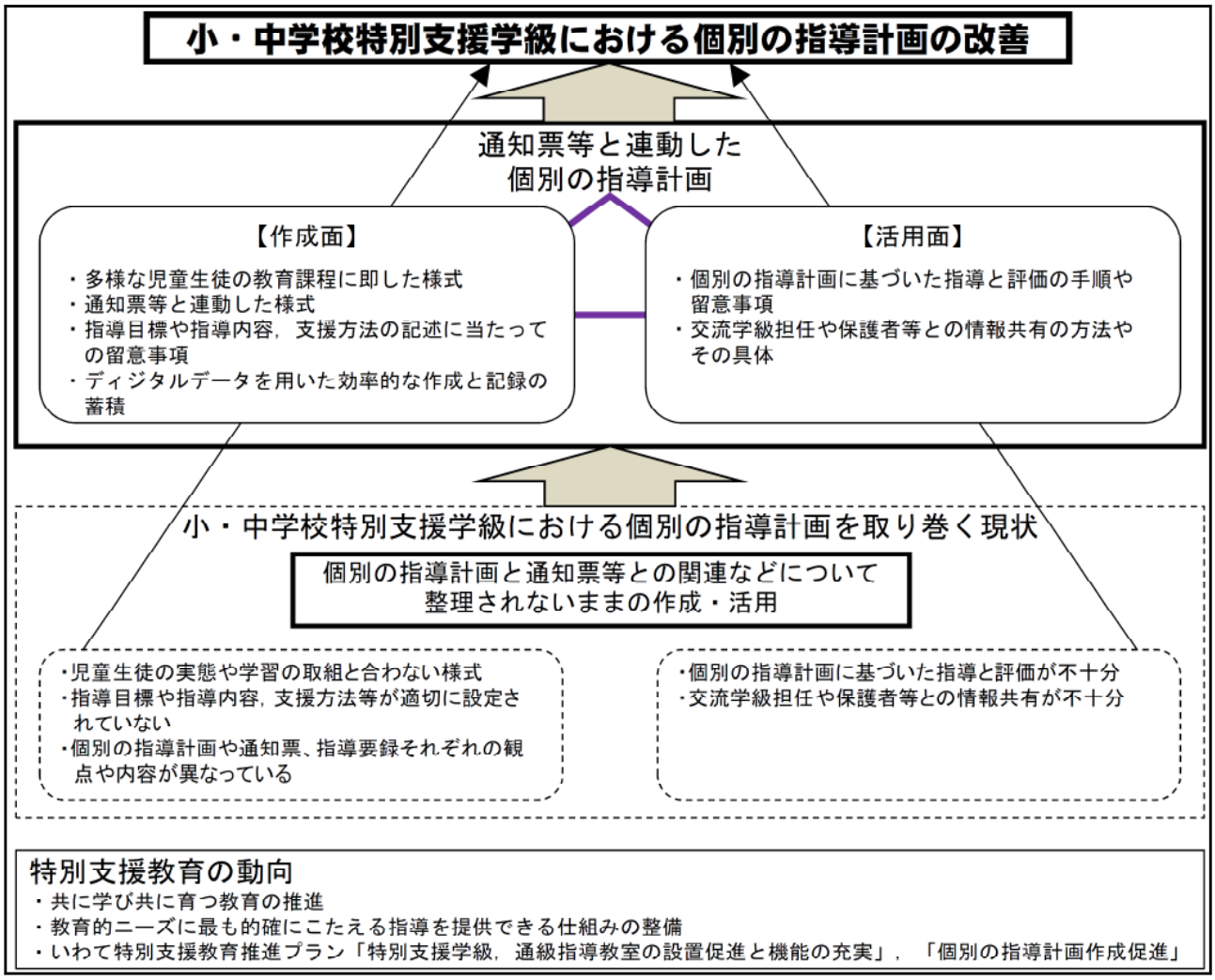
【個別化】目標や手立て・評価が、その子どもに応じたものになっていること
【集団化】手立てにかかわる場面や、活用の場面が集団での活動を意識したものであること
【一貫性】目標や手だて等について、職員相互の共通理解が図られていること
【継続性】教育の成果等について引継ぎや説明が行われ、発展的に継続されていること
【連　携】保護者や医療関係者等、子どもにかかわる人と共通理解が図られること

これら五つの視点に照らし合わせると，個別の指導計画は，一人一人の教育的ニーズに対応した，一貫性のある継続した指導・支援のための道具ととらえることができる。一貫性・継続性のある指導・支援のために，校内においては交流学級や教科担任，校外においては保護者や隣接校種，関係機関と情報を共有することが大切であり，個別の指導計画はそのための道具として有効なものである。小学校学習指導要領や中学校学習指導要領の総則においても，個々の児童生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うことや，特別支援学級又は通級による指導については，教師間の連携に努め，効果的な指導を行うことが明記されていることからも，個別の指導計画の作成・活用は求められている。

したがって，個別の指導計画を活用した，交流学級担任や教科担任，保護者，隣接校種，関係機関と情報共有の方法やその具体について示すことが必要である。

(4)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想図

基本的な考え方を踏まえ，小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想図を【図３】に示す。



【図３】小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想図

２　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）

(1)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の作成

ア　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の概要

通知票等と連動した個別の指導計画の作成・活用を図るために，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を作成する。「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）は，ディジタルデータ編と資料編で構成する。

ディジタルデータ編は，小・中学校特別支援学級担当者が，通知票等と連動した個別の指導計画を作成する際に使うものであり，多くの小・中学校でインストールされている市販の表計算ソフト「エクセル」を使用する。

資料編は，通知票と連動した個別の指導計画を作成・活用するに当たって，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項，交流学級担任や教科担任等との情報共有の方法やその具体についてまとめたものである。資料編は，個別の指導計画を作成・活用する際に手元に置いて読むことができるように冊子とする。

イ　ディジタルデータ編

(ｱ)　ディジタルデータ編の概要

ディジタルデータ編は，【表５】に示す通り，「トップページ」が１シート，指導計画関連シート群が６シート，通知票関連シート群が７シート，個別の教育支援計画関連シート群が５シートの合計19シートで構成している。

【表５】個別の指導計画作成・活用パック～ディジタルデータ編～の構成

「トップページ」		
指導計画関連シート群	通知票関連シート群	個別の教育支援計画関連シート群
「個別の指導計画Ａ」	「通知票表紙」	「家庭環境調査票兼フェイスシート」
「個別の指導計画Ａ⁺」	「通知票裏表紙」	「基礎資料」
「指導内容一覧（小学校）」	「通知票裏表紙（卒業生用）」	「ネットワーク記録票」
「指導内容一覧（中学校）」	「通知票教科欄（通常の教育）」	「生活に関するアンケート（保護者宛）」
「個別の指導計画Ｂ（小学校）」	「通知票生活記録欄」	「交流学級担任，教科担任打合せ資料」
「個別の指導計画Ｂ（中学校）」	「通知票生活記録欄（諸活動あり）」 「通知票生活記録欄（総合あり）」	

(ｲ)　指導計画関連シート群

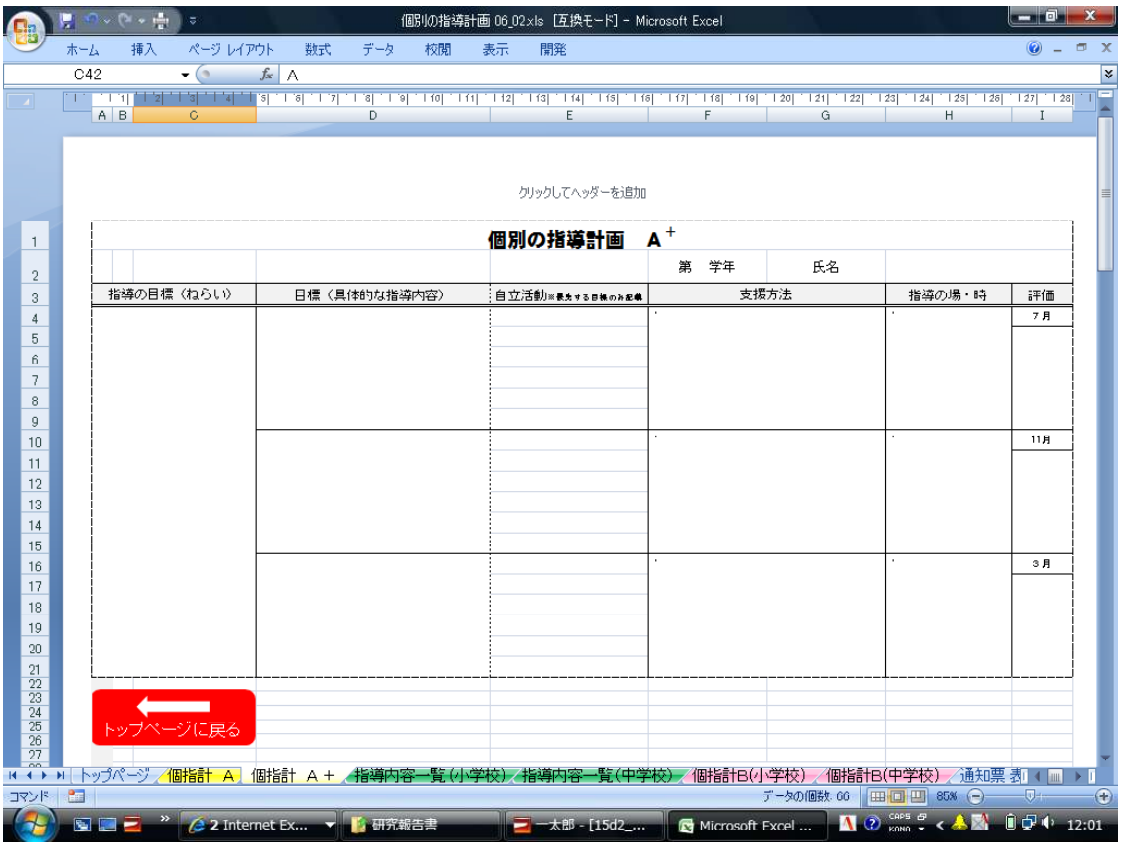
12頁【図４】は，「トップページ」シートである。小・中学校特別支援学級担任が，使用するに当たって，ディジタルデータ編の構成を理解できるように，構成群ごとにまとめて，各シートへのリンクボタンを配置する。

12頁【図５】は，「個別の指導計画Ａ」シートである。このシートは，学校教育目標と自立活動の視点から指導の目標や具体的な指導内容等を設定し，実際の取組に生かすためのものである。自立活動の内容は，人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と，障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素によって構成されている。そこで，学校教育目標と，自立活動の目標との関連性を図り，学校での教育活動と児童生徒への個別の指導・支援を相互に意味付けて進めていくことをねらっている。

その一方，学校教育目標は，知・徳・体の３観点で構成されており，この３観点を踏まえて児童生徒の指導の目標をそれぞれ設定することは，担当者にとって困難であるかもしれない。また，児童生徒にとっても多くのことに取り組まなければならないという混乱や困難が生じたりすることもある。したがって，「個別の指導計画Ａ」の指導の目標をさらに焦点化したものが，13頁【図６】の「個別の指導計画Ａ⁺」シートである。

【図４】ディジタルデータ編「トップページ」シート

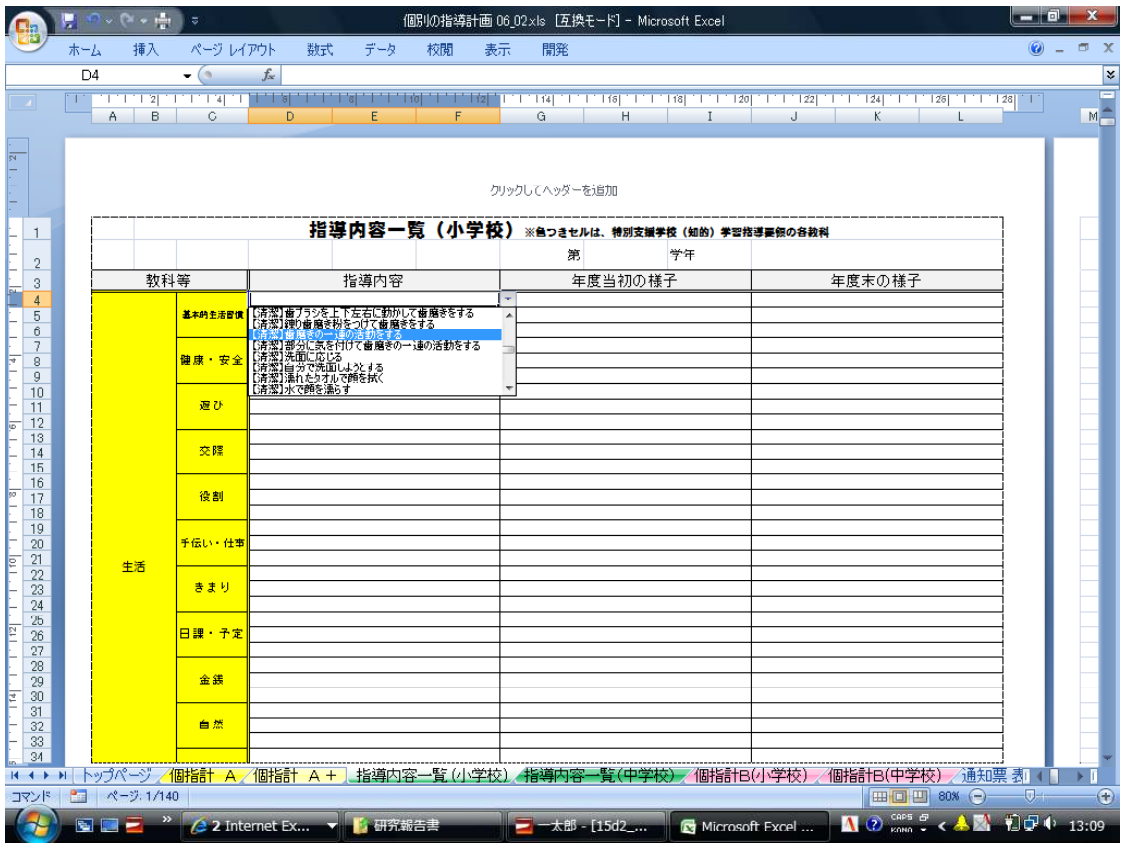
【図５】ディジタルデータ編「個別の指導計画Ａ」シート



【図６】ディジタルデータ編「個別の指導計画Ａ$^{+}$」シート

14頁【図７】は，「指導内容一覧（小学校）」シートであり，別シートには中学校用のものがある。小・中学校特別支援学級においては，障がいの状態等が幅広く，指導内容や支援方法も多岐に及んでいる児童生徒が在籍している。そのため，場合によっては，一つの学級に在籍学年と同じ教科の指導内容によって学ぶ児童生徒もいれば，下学年の指導内容，あるいは，特別支援学校（知的障がい）の指導内容によって学ぶ生徒が在籍していることもある。そのため，一人一人の児童が，どのような指導内容を学ぶことが適切であるかを把握しておくことが，それぞれの指導形態における適切な指導につながってくる。「指導内容一覧（小学校）」シートでは，小学校の各教科等と特別支援学校（知的障がい）の各教科等の教科名及び指導内容がデータベース化されている。したがって，「指導内容一覧（小学校）」を使用して，児童一人一人について，各教科等の系統性に基づきながら指導内容を選択し，年度当初の様子を確認する。

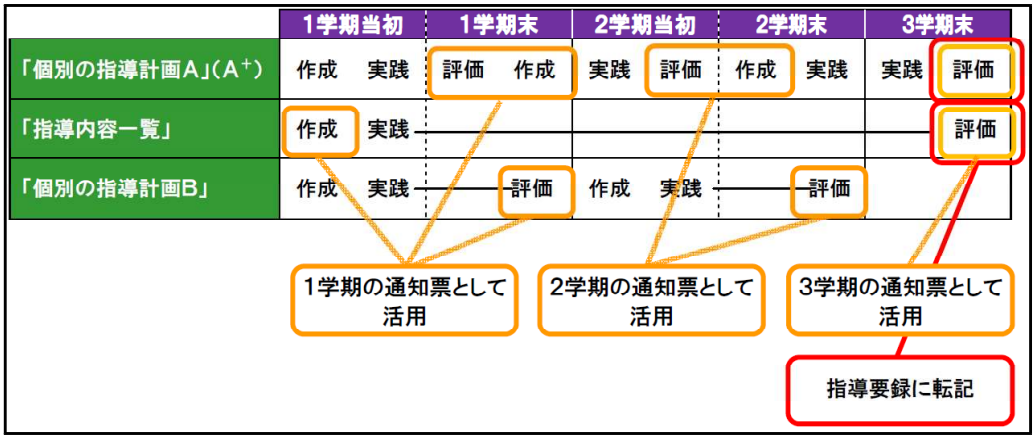
【図８】は，「個別の指導計画Ｂ（小学校）」シートである。このシートでは，「指導内容一覧（小学校）」シートで確認した，児童一人一人の指導内容や年度当初の様子に基づき，対象学期における目指す姿，支援方法を設定し，実際の単元・授業づくりや単元・授業の改善に生かしていく。そして，学期末には評価を行うことにより，次の学期に生かしていく。また，このシートを使用することにより，交流及び共同学習として，交流学級での学習に参加する場合，それぞれの指導の形態におけるねらい（目指す姿）の明確化や評価にもつながる。



【図７】ディジタルデータ編「指導内容一覧（小学校）」シート

【図８】ディジタルデータ編「個別の指導計画Ｂ」シート

「個別の指導計画Ａ」（Ａ⁺），「指導内容一覧」，「個別の指導計画Ｂ」各シートの作成の流れと，通知票への活用例を【図９】に示す。



【図９】「個別の指導計画Ａ」（Ａ⁺），「指導内容一覧」，「個別の指導計画Ｂ」各シートの作成の流れと通知票への活用例

(ｳ)　通知票関連シート群

通知票関連シート群は，通知票の表紙，裏表紙，生活記録欄等の７シートで構成している。小・中学校特別支援学級担当者は，個別の指導計画と通知票，指導要録それぞれの内容と機能を理解しながら作成することが必要である。また，学校現場では，効率的な作成による記録の蓄積も求めている。そこで，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）では，ディジタルデータを用いて個別の指導計画を作成し，通知票や指導要録に活用していくものとする。

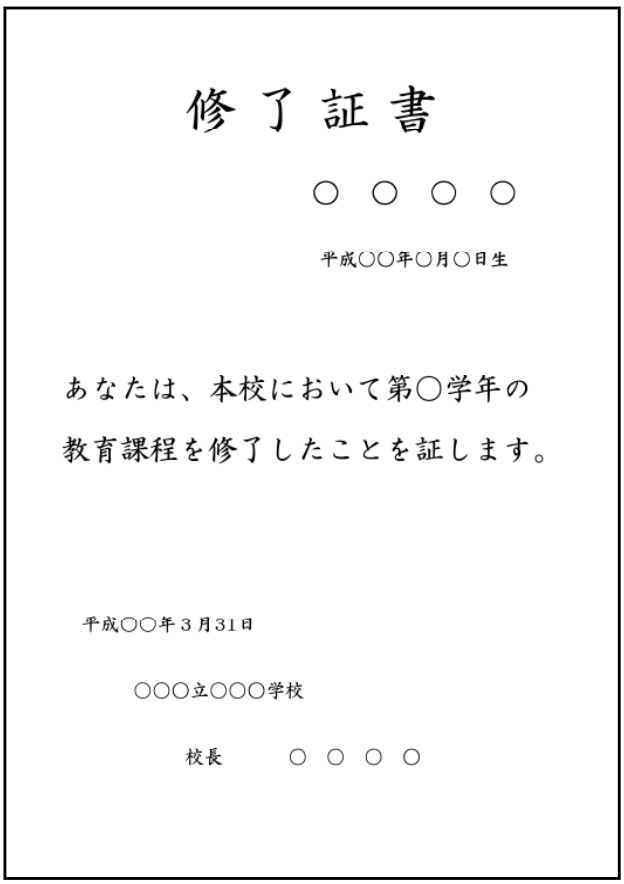
通知票１枚（Ａ４版４頁）は，表紙，裏表紙，生活記録欄の３頁を基本として，一人一人の教育的ニーズや教科等の指導目標，指導内容，指導の形態によって，【表６】のように個別の指導計画関連シート群の各シートを組み合わせてファイリングする。

なお，通知票関連シート群の各シートはディジタルデータによる例示であり，各学校の実状等に応じながら適宜様式を変更することができるようになっている。また，個別の指導計画と通知票，指導要録それぞれの内容と機能，関連の仕方などについては，資料編において示す。

【表６】通知票関連シート群と，個別の指導計画関連シート群の組み合わせによるファイリング形式の通知票

	通常の教育に，自立活動を加える場合	特別支援学級での学習に，教科等における交流及び共同学習を加える場合	主に特別支援学級での学習の場合
通知票関連シート群	◆「表紙」 ◆「裏表紙」 ◆「生活記録欄」		
	◆「教科欄（通常の教育）」	◆「教科欄（通常の教育）」 ※児童生徒が，交流学級で取り組んだ指導の形態のみ記入	
個別の指導計画関連シート群	■「個別の指導計画Ａ」又は「個別の指導計画Ａ⁺」	■「個別の指導計画Ａ」又は「個別の指導計画Ａ⁺」 ■「指導内容一覧」 ■「個別の指導計画Ｂ」 ※児童生徒が，特別支援学級で取り組んだ指導の形態のみ記入	■「個別の指導計画Ａ」又は「個別の指導計画Ａ⁺」 ■「指導内容一覧」 ■「個別の指導計画Ｂ」

【図10】ディジタルデータ編「通知票　表紙」シート



【図11】ディジタルデータ編「通知票　裏表紙」シート

【図12】ディジタルデータ編「通知票　生活記録欄（諸活動あり）」シート

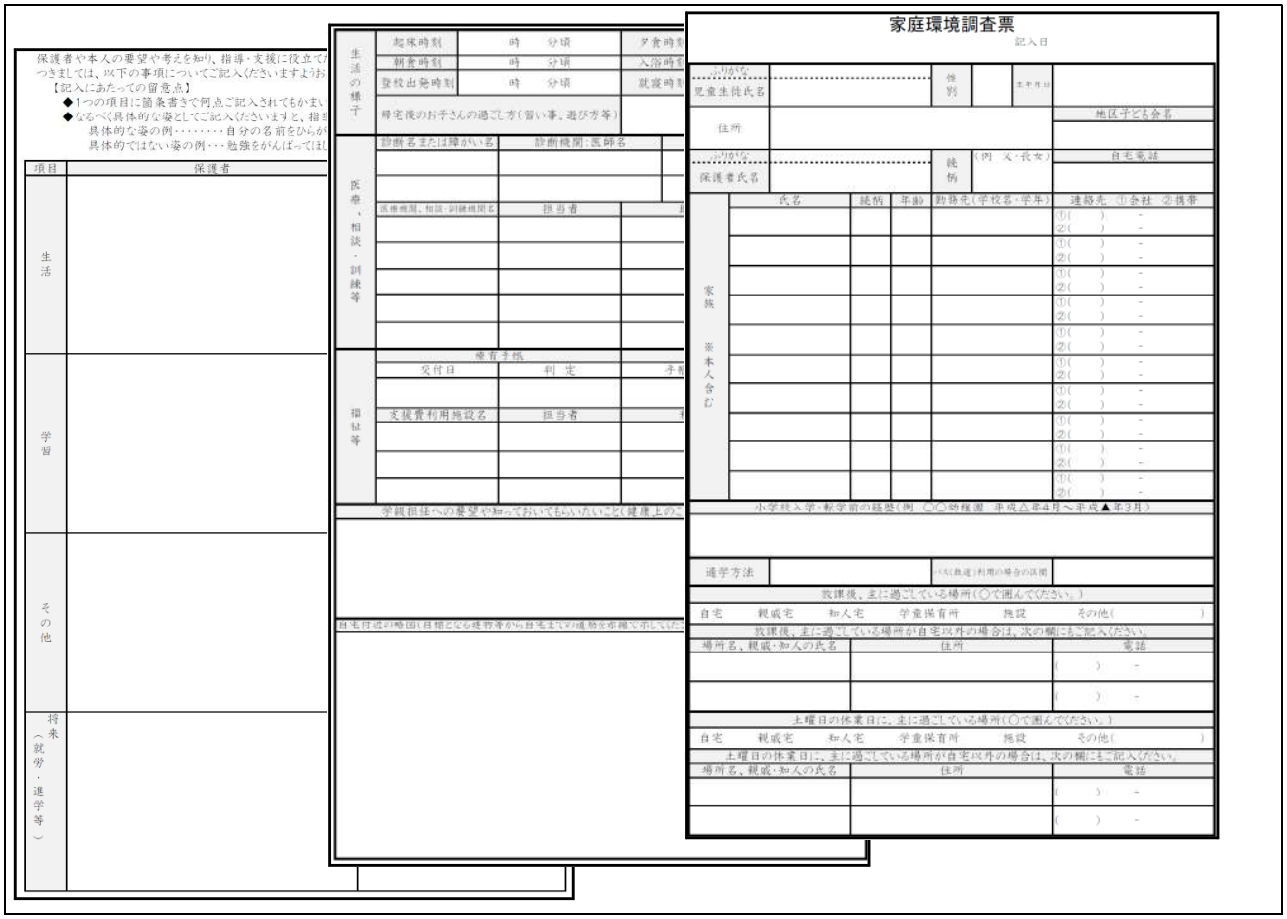
(ｴ)　個別の教育支援計画関連シート群

個別の教育支援計画とは，長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的として策定されるもので，教育のみならず，福祉，医療，労働等の様々な側面からの取組を含め関係機関，関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠であり，教育的支援を行うに当たり同計画を活用することが意図されている。

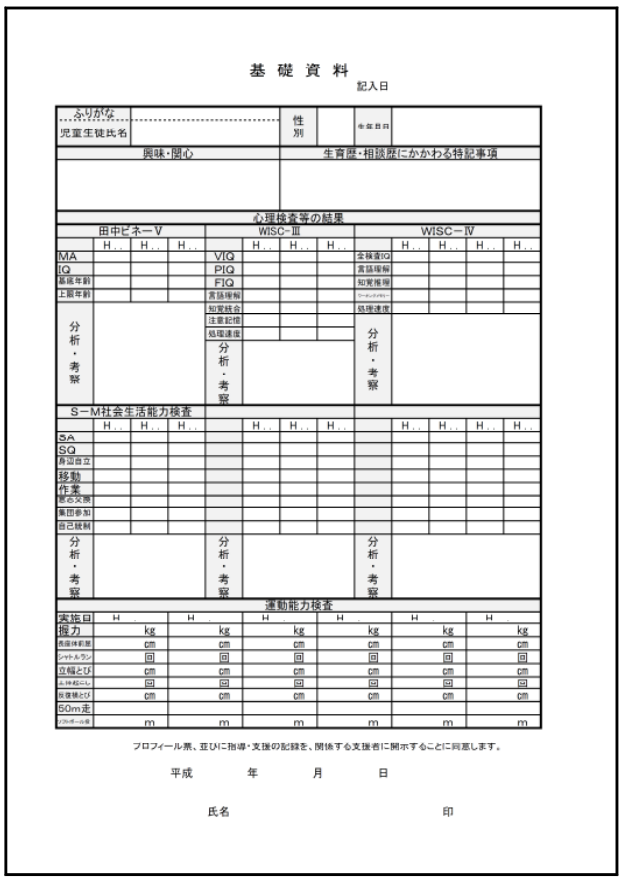
そこで，個別の教育支援計画関連シート群として，「家庭環境調査票兼フェイスシート」シート（【図13】），「基礎資料」シート（【図14】），「ネットワーク記録票」シート（【図15】），「生活に関するアンケート(保護者宛)」シート（【図16】），「交流学級，教科担任打合せ資料」（【図17】）の５つのシートで構成している。

「家庭環境調査票兼フェイスシート」シートは，各学校で年度当初に保護者に対して記入・提出を依頼している家庭環境調査票に，児童生徒の全体像や福祉，医療等の関係機関との役割分担，支援の全体像を盛り込んだものである。このことにより，いわゆるフェイスシートの機能をもたせ，小・中学校特別支援学級担当者が，あらためて記録をまとめたりフェイスシートとして別に作成したりすることを省いている。

また，諸検査をまとめておく「基礎資料」シート，関係機関とのケース会議等を記録しておく「ネットワーク記録票」シート，保護者から児童生徒の生活に関する情報を得るための「生活に関するアンケート(保護者宛)」シート，交流及び共同学習のねらいを共有するための「交流学級，教科担任打合せ資料」シート等を必要に応じて組み合わせて作成・活用することを想定している。また，岩手県内各市町村で作成・活用が進められている就学支援ファイルと共通する部分を共有したり，機能を補完し合ったりしながら一体的な活用を図ることも望まれる。



【図13】ディジタルデータ編「家庭環境調査票兼フェイスシート」シート



基 礎 資 料

記入日

ふりがな 児童生徒氏名		性別		年月日	

興味・関心	生育歴・相談歴にかかわる特記事項

心理検査等の結果

田中ビネーV	H..	H..	H..	WISC-Ⅲ	H..	H..	H..	WISC－Ⅳ	H..	H..	H..	H..
MA				VIQ				全検査IQ				
IQ				PIQ				言語理解				
基底年齢				FIQ				知覚推理				
上限年齢				言語理解				ワーキングメモリー				
分析・考察				知覚統合				処理速度				
				注意記憶				分析・考察				
				処理速度								
				分析・考察								

S－M社会生活能力検査

	H..	H..	H..		H..	H..	H..		H..	H..	H..	H..
SA												
SQ												
身辺自立												
移動												
作業												
意志交換												
集団参加												
自己統制												
分析・考察				分析・考察				分析・考察				

運動能力検査

実施日	H .	H .	H .	H .	H .	H .
握力	kg	kg	kg	kg	kg	kg
長座体前屈	cm	cm	cm	cm	cm	cm
シャトルラン	回	回	回	回	回	回
立幅とび	cm	cm	cm	cm	cm	cm
ふ伸ばこし	回	回	回	回	回	回
反復横とび	cm	cm	cm	cm	cm	cm
50m走						
ハンドボール投	m	m	m	m	m	m

プロフィール票、並びに指導・支援の記録を、関係する支援者に開示することに同意します。

平成　　年　　月　　日

氏名　　印

【図14】ディジタルデータ編「基礎資料」シート

ネットワーク記録票

実施日
記録者

対象児童生徒氏名	
目的	

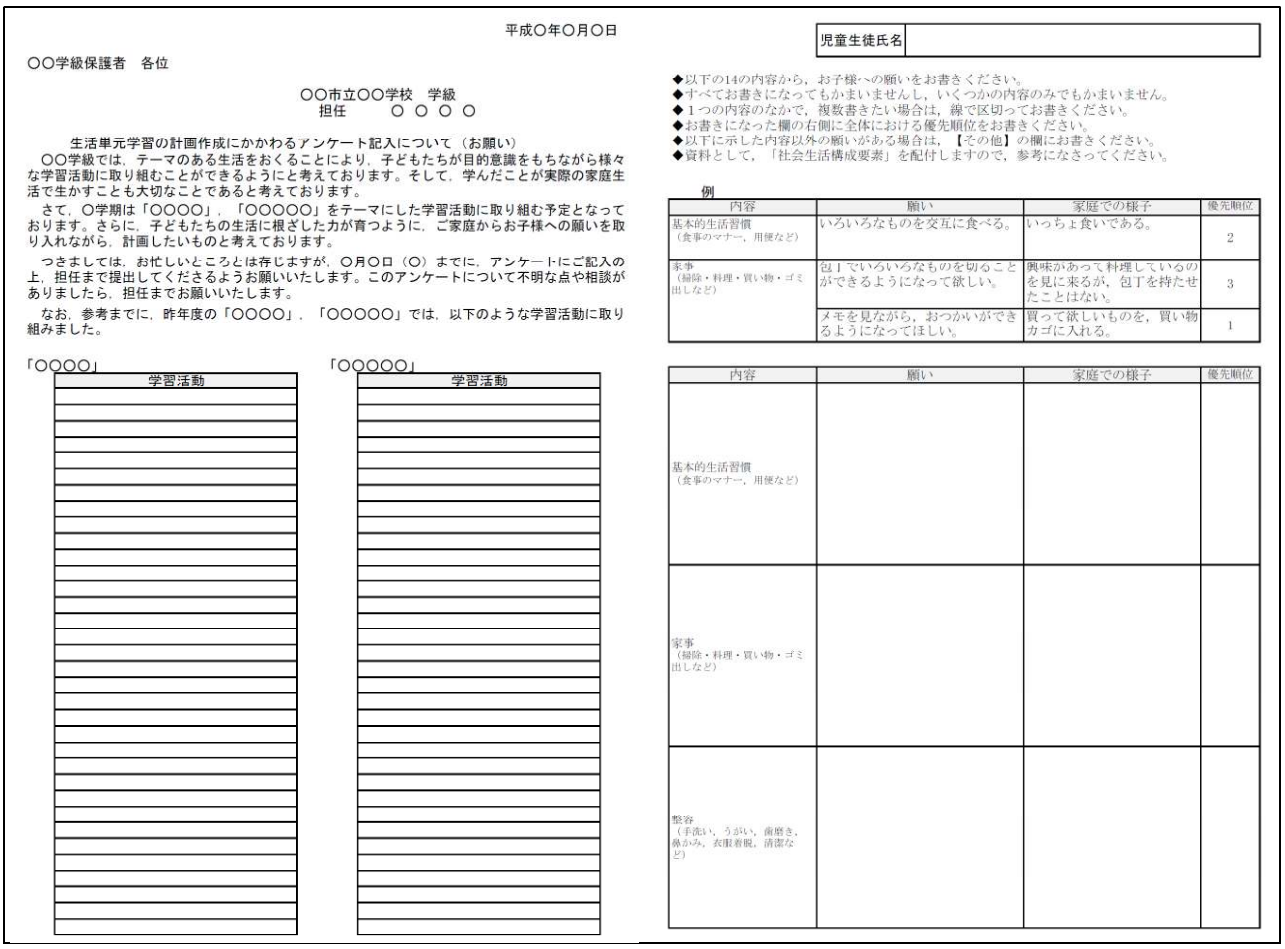
連携方法	その他の場合

参加者	所属	職	氏名

現状（支援状況、課題等）

今後の取組等、確認事項

【図15】ディジタルデータ編「ネットワーク記録票」シート



平成○年○月○日

○○学級保護者　各位

○○市立○○学校　学級
担任　　○ ○ ○ ○

生活単元学習の計画作成にかかわるアンケート記入について（お願い）

○○学級では，テーマのある生活をおくることにより，子どもたちが目的意識をもちながら様々な学習活動に取り組むことができるようにと考えております。そして，学んだことが実際の家庭生活で生かすことも大切なことであると考えております。

さて，○学期は「○○○○」，「○○○○○」をテーマにした学習活動に取り組む予定となっております。さらに，子どもたちの生活に根ざした力が育つように，ご家庭からお子様への願いを取り入れながら，計画したいものと考えております。

つきましては，お忙しいところとは存じますが，○月○日（○）までに，アンケートにご記入の上，担任まで提出してくださるようお願いいたします。このアンケートについて不明な点や相談がありましたら，担任までお願いいたします。

なお，参考までに，昨年度の「○○○○」，「○○○○○」では，以下のような学習活動に取り組みました。

「○○○○」

学習活動

「○○○○○」

学習活動

児童生徒氏名	

◆以下の14の内容から，お子様への願いをお書きください。
◆すべてお書きになってもかまいませんし，いくつかの内容のみでもかまいません。
◆１つの内容のなかで，複数書きたい場合は，線で区切ってお書きください。
◆お書きになった欄の右側に全体における優先順位をお書きください。
◆以下に示した内容以外の願いがある場合は，【その他】の欄にお書きください。
◆資料として，「社会生活構成要素」を配付しますので，参考になさってください。

例

内容	願い	家庭での様子	優先順位
基本的生活習慣 （食事のマナー，用便など）	いろいろなものを交互に食べる。	いっちょ食いである。	2
家事 （掃除・料理・買い物・ゴミ出しなど）	包丁でいろいろなものを切ることができるようになって欲しい。	興味があって料理しているのを見に来るが，包丁を持たせたことはない。	3
	メモを見ながら，おつかいができるようになってほしい。	買って欲しいものを，買い物カゴに入れる。	1

内容	願い	家庭での様子	優先順位
基本的生活習慣 （食事のマナー，用便など）			
家事 （掃除・料理・買い物・ゴミ出しなど）			
整容 （手洗い，うがい，歯磨き，鼻かみ，衣服着脱，清潔など）			

【図16】ディジタルデータ編「生活に関するアンケート（保護者宛）」シート　※一部抜粋

交流学級，教科担任　打合せ資料

記入日

在籍学級		交流学級			
ふりがな	0	性別	0	生年月日	0
児童生徒氏名	0				

興味・関心	生育歴・相談歴にかかわる特記事項
0	0

児童生徒の様子	指導・支援に有効な手立て，有効ではない手立て

交流及び共同学習等の場面	特学担任等の支援	参加を望む活動	交流及び共同学習等のねらい・交流学級担任，教科担任にお願いしたいこと

備　考

【図17】ディジタルデータ編「交流学級担任，教科担任打合せ資料」シート

ウ　資料編

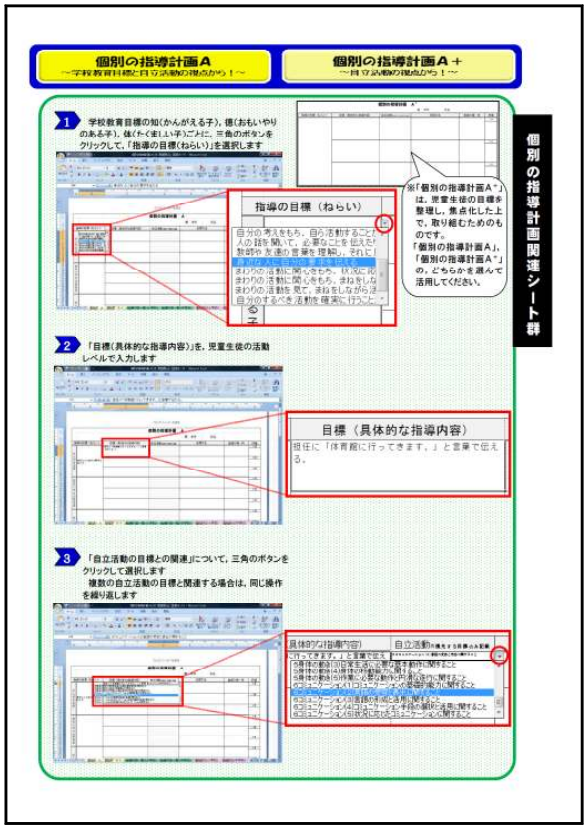
資料編の構成を，【表７】に示す。

【表７】資料編の構成

	内　　容
◆「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」ディジタルデータ編取扱説明書	1　個別の指導計画関連シート群 2　通知票関連シート群 3　個別の教育支援計画関連シート群
◆個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項	1　指導と評価の手順や留意事項 2　事例に基づく指導と評価の手順 （1）　小学校の事例 （2）　中学校の事例 3　指導要録への記入例
◆情報共有の方法やその具体	1　交流学級担任・教科担任 2　保護者 3　隣接校種 4　関係機関
◆資料	1　学習指導要領，指導要録，評価規準，通知票について

資料編は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」ディジタルデータ編の全体構成や，基本的な操作の流れをまとめた取扱説明書を盛り込む。このことにより，コンピュータの操作に慣れていない担当者にとっても，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」ディジタルデータ編を使用しやすくなることにつながるものと考える。なお，取扱説明書の作成に当たっては，【図18】から【図19】に示す通り，手に取りやすくなるよう，図解を用いる。

【図18】資料編「取扱説明書」

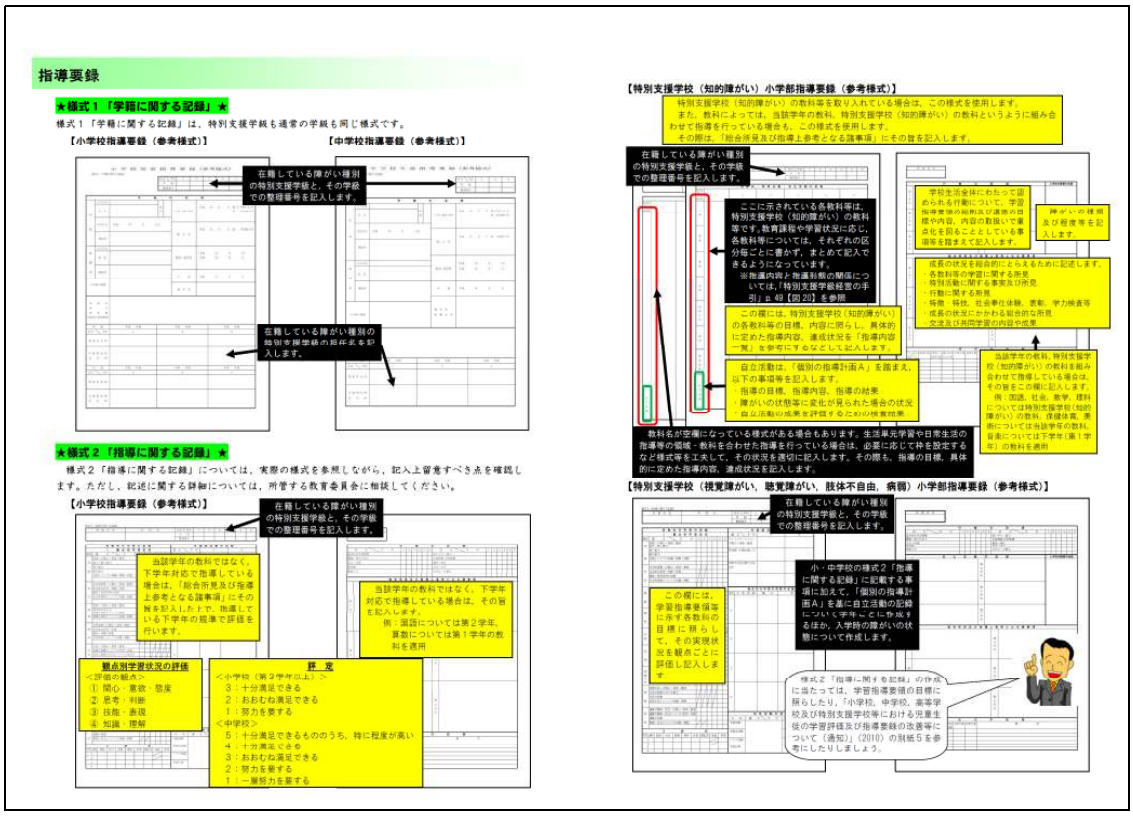


【図19】資料編「取扱説明書」

また，資料編は，事例を基にした指導と評価の手順や留意事項，情報共有の方法やその具体について，研究協力校による実践を基に盛り込み，個別の指導計画をそれぞれの指導形態の中でどのように指導・支援に生かしていくのか，どのように評価－改善につなげていき，通知票と連動させて

いくのかを理解できるように構成する。

さらには，学習指導要領や指導要録，評価規準，通知票の取扱いや機能上の違いについての説明や，指導要録記入上の留意点（【図20】）を盛り込む。個別の指導計画の評価が，どのように指導要録に反映され記録されていくのかを理解できるように構成する。



【図20】資料編「指導要録への記入例」

(2)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の修正計画

「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の修正について，【表８】に示した修正計画に基づいて取り組む。

【表８】修正計画

	内容	方法	処理・解釈の仕方
作成面への取組	・多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の様式 ・通知票等と連動した個別の指導計画の様式 ・指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項 ・ディジタルデータを用いた効率的な作成と記録の蓄積	◆質問紙法 担任等への質問紙による意識調査 ◆記録法 実践の様子を観察しての記録	日々の指導記録と個別の指導計画の作成・活用状況を分析したり，質問紙の結果を分析したりして，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた作成面への取組について考察する
活用面への取組	・個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項 ・交流学級担任や保護者等との情報共有の手順や留意事項	◆質問紙法 担任等への質問紙による意識調査 ◆記録法 実践時における指導と評価の手順や効果的だった事項の記録 実践時における，情報共有の手順や効果的だった事項の記録	日々の指導記録と個別の指導計画の作成・活用状況を分析したり，質問紙の結果を分析したりして，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた活用面への取組について考察する

３　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた，通知票等と連動した個別の指導計画の作成・活用の実践

(1)　実践の概要

盛岡市立仁王小学校特別支援学級と，盛岡市立上田中学校特別支援学級を対象に実践を行った。実践内容等の概要を示したものが【表９】である。

【表９】盛岡市立仁王小学校・上田中学校特別支援学級における実践の概要

月	実践内容
７月	「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた個別の指導計画の作成
８月	↓
９月	個別の指導計画に基づいた指導と評価・情報共有
10月	↓
11月	↓
12月	個別の指導計画による評価・記録の蓄積

(2)　盛岡市立仁王小学校における実践

ア　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた個別の指導計画の作成

担任Ａ，担任Ｂともに，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の資料編を読みながら，ディジタルデータ編の各シートを作成し始めた。

担任Ａは，銀河さん（仮名）が，下学年や特別支援学校（知的障がい）の各教科の内容を学ぶことが適切であると考え，「指導内容一覧」シートで指導内容を確認した上で，「個別の指導計画Ｂ」シートを作成した。

「指導内容一覧」シートは，１学期や昨年度までの記録が整理されていたこともあり，担任Ａは，指導内容と年度当初の様子について，約40分間で入力した。「個別の指導計画Ｂ」シートについては，目指す姿と支援方法について，約60分間入力した。各教科等の指導内容を教育課程のどの時間に位置付けるか検討しながらの入力であることから，約60分間入力したものの，目指す姿と支援方法のすべてを入力することはできなかった。担任Ａは，２学期の教育課程について見据えることが必要であり，見直したりすることも必要であると考えていた。

【シートを作成する担任Ａと担任Ｂ】

【表10】銀河さんの「指導内容一覧」シート　※国語の部分のみ抜粋

	指導内容	年度当初の様子
話すこと・聞くこと	【小１・２：話すこと】イ　相手に応じて，話す事柄を順序立て，丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと	思いつくままの事柄を丁寧な言葉で話す
	【小１・２：聞くこと】エ　大事なことを落とさないようにしながら，興味をもって聞くこと	興味関心のあることを記憶にとどめておく
書くこと	【小１・２：構成】イ　自分の考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること	活動の全体像あるいは一部のみをとらえて構成する
	【小１・２：記述】ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと	活動の全体像あるいは一部のみを書く
読むこと	【小１・２：説明的な文章の解釈】イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと	内容の大体を読む
	【小１・２：文学的な文章の解釈】ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと	登場人物の行動を読む
伝統的な言語文化・国語の特質	【小１・２：言葉の特徴やきまり】(カ)　文の中における主語と述語との関係に注意すること	「誰が」が人を表し，「何をした」は行動を表すということを理解している
	【小３・４：文字】(イ)　第３学年及び第４学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと	第２学年までの漢字の読み・書きともに理解し，文の中で使う

担任Ｂは，仙太さん（仮名）が，交流学級で教科のほとんどを学習するということから，「交流学級担任，教科担任打合せ資料」シートの作成から始めた。担任Ｂは，「交流及び共同学習のねらいなど，あらためて考えたり振り返ったりする機会になった。」と話しながら入力していた。約40分間で作成を終えた。

交流学級，教科担任　打合せ資料

記入日　平成25年4月1日

在籍学級	岩手学級	交流学級		花巻学級	
ふりがな 児童生徒氏名	せんた 仙太	性別	男	生年月日	平成13年4月1日

興味・関心	生育歴・相談歴にかかわる特記事項
・歴史や地理の事象 ・地図や電話帳を見て，書かれていることを記憶したりノートにまとめたりすること	・A病院受診（〇〇Dr）　□□□の診断 ・B小学校から転入（小4，4月） ・C病院受診（小4，5月）（△△Dr） ・児童デイサービス利用開始（小4，6月）
児童生徒の様子	**配慮事項**（〇指導・支援に有効な手立て，▲有効ではない手立て）
・理解力，処理能力が優れている。 ・うれしいときは，両手を叩きながらジャンプする。 ・見通しをもてない活動，明らかに難しい課題，理由を理解しないままの個別支援の際には，大きな声で話しながら混乱する。	〇何のために活動するのかを説明したり，取り組むことができそうか確認したりすること 〇混乱したときには，「静かにします。～～中です。」と伝えてから別の場所に移動して事態の確認をすること 〇取り組んでいるとき，取り組みそうなときに「仙太さん，すごい」とほめること ▲混乱しているときに、その場で説明すること

交流及び共同学習等の場面	特学担任等の支援	参加を望む活動	【交流及び共同学習等のねらい】 ・交流学級担任，教科担任にお願いしたいこと
朝学習	なし	時間と場所の共有 ※個別の課題に取り組む	【集団と同じ場所において個別の課題に取り組み，内容を習得する】 ・個別の課題は，本人が持っていく。個別の課題がない場合は，読書の時間としてほしい ・朝学習の時間に，学年集会等が入った場合は，理由を伝えてから他の子どもたちと同じ活動に取り組ませてほしい ・個別の課題の丸つけをお願いしたい
朝の会，係活動	特学担任	活動全般 ※朝の会での進行も含む	【学級内組織の活動に取り組み，役割を果たすことの意義を理解したり，望ましい人間関係を形成したりする】 ・非日常的な活動や新たな活動については，事前に説明をしてほしい
教科	なし	活動全般 ※グループ学習での進行は，教師等の補助が必要	【多様な考え方，多様な学び方に触れながら，教科の指導内容を習得する】 ・機械的な記憶に優れていることから，機会をとらえて生かしてほしい ・友達の意見や教師の説明については，時折要約して伝えてほしい
給食	なし	活動全般	【当番活動等の役割と働くことの意義を理解する】 ・仲間と協力して配膳できているかを観察し，指導が必要な場合は，その様子を担任に伝えてほしい
清掃活動	なし	活動全般	【当番活動等の役割と働くことの意義を理解する】 ・無言で時間いっぱい清掃活動できるよう，すべき活動をあらかじめ伝えてほしい
行事・学年集会・委員会	なし	活動全般	【集団への所属感や連帯感を深め、協力して取り組む】 ・配慮事項に準ずる
クラブ活動・委員会	特学担任	活動全般	【集団の一員として協力して取り組む】 ・基本的には担任が支援するものの、いない場合や予期せぬことが起きるであろう、起きた場合は、穏やかに伝えてほしい

備　考

【図21】仙太さんの「交流学級，教科担任打合せ資料」シート

また，担任Ａ，担任Ｂともに，「個別の指導計画Ａ」シートについても作成した。学校教育目標と関連させながら，指導内容を焦点化させながら約30分間で作成を終えた。

後日，担任Ａ，担任Ｂともに，作成した「個別の指導計画Ａ」シート，「個別の指導計画Ｂ」シートを保護者に提示しながら説明し，各家庭に持ち帰って朱書きを加えていただいた。

指 導 計 画 A

第6学年　　氏名　　銀河

指導の目標（ねらい）		目標（具体的な指導内容）	自立活動※優先する目標のみ記載	支援方法	指導の場・時	評価
かんがえる子	自分の役割や仕事を責任をもって果たすことができる	朝掃除の仕方を理解し，決められた活動に取り組むことができる。	2心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること 3人間関係の形成(4)集団への参加の基礎に関すること	・はじめは，朝掃除で取り組む活動を固定し，徐々に，友達が伝えた活動に取り組む ・担任が必ず巡回し，評価する	・玄関前・登校後	7月 A
		朝掃除において，友達が取り組んでいない活動を見つけて取り組むことができる。	2心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること 3人間関係の形成(4)集団への参加の基礎に関すること	・担任と「～は○○さん，～～は△△さん」のように，活動と友達をマッチングさせながら言葉で確認する ・「～は・・・」と友達の名前が出てこないものに「銀河さん」と言ってから取り組む	・玄関前・登校後	11月
				・	・	3月
おもいやりのある子	友達に必要な支援をすることができる	移動の際の教師の声がけを合図にして，下学年の友達に声をかけてから一緒に行動することができる。	2心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること 6コミュニケーション(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	・「○○さん行くよ」という話し方を事前指導する ・担任の「移動します」の声がけを合図にする	・教室等・生活単元学習	7月 A
		移動の際に，下学年の友達に声をかけてから一緒に行動することができる。	2心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること 6コミュニケーション(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	・担任の「移動します」の声がけを「はい行きます」，「みんなこっちだよ」のように変化を加える	・教室等・生活単元学習	11月
				・	・	3月
たくましい子	健康や身体の変化に関心をもち，健康で安全な生活ができる	健康観察のときに，自分の健康状態を，担任に伝えることができる。	1健康の保持(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること 1健康の保持(3)身体各部の状態の理解と異常に関すること 6コミュニケーション(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	・はじめは，担任からの「銀河さん体調はどうですか」の問いのあとに，切り傷，痛み，かゆみ，寒さ等についてまとめた絵カードで示し選択するようにする ・徐々に絵カードをなくし，問いだけにする	・教室・朝の会	7月 A
		身近な教師（学団内）からの問いかけに対して，自分の健康状態を伝えることができる。	1健康の保持(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること 1健康の保持(3)身体各部の状態の理解と異常に関すること 6コミュニケーション(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	・はじめは，異なる場所で担任が問いかけ，徐々に担任以外の教師からの問いかけに移る	・すべての場・すべての時間	11月
				・	・	3月

【図22】銀河さんの「指導計画Ａ」シート

以下，個別の指導計画の作成にかかわって，担任Ａと担任Ｂからの意見である。

◎それぞれのシートの一つ一つのセルが大きくないので，作成に対してプレッシャーが少なくてよい

◎「指導内容一覧表」では，各教科等の指導内容がデータベース化されていて，ドロップダウンリストから選択できるので，勉強になる

▲「指導内容一覧」シートと「指導計画Ａ」シートは，セルが細いので，２行どりくらいだとよい

▲各教科等の指導内容すべてを一覧表示できるようになっているとよい

▲セルの中での改行の仕方を教えてほしい

イ　個別の指導計画に基づいた指導と評価・情報共有

銀河さんの「指導計画Ａ」シートにおける，「かんがえる子」に関する８～11月の目標等は，【表11】の通りであり，登校後の玄関での朝掃除を指導場面とした。

【表11】銀河さんの「指導計画Ａ」シート　※「かんがえる子」の目標等（８～11月）のみ抜粋

目標（具体的な指導内容）	自立活動	支援方法	指導の場・時
朝掃除において，友達が取り組んでいない活動を見つけて取り組むことができる。	２心理的な安定 (2)状況の理解と変化への対応に関すること ３人間関係の形成 (4)集団への参加の基礎に関すること	・担任と「～は○○さん」のように，活動と友達をマッチングさせながら言葉で確認する ・「～は・・・」と友達の名前が出てこないものに「銀河さん」と言ってから取り組む	・玄関前 ・登校後

朝掃除を取り組み始めた４月当初は，活動を玄関内の掃き掃除に固定し，自分の役割や仕事を責任をもって果たすことができることを目標（具体的な指導内容）とした。その後，徐々にその活動を広げていき，玄関前の掃き掃除やちりとりでのゴミ集めなどを行った。

銀河さんは通学方法の関係上，設定されている朝掃除開始時刻には間に合わないことが多い。そこで，８月からは，担任Ａと一緒にそれぞれの活動と友達の名前を言葉でマッチングさせながら確認し，友達が取り組んでいない活動を見付けることにした。次第に，銀河さん一人で活動と友達の名前をマッチングして，友達が取り組んでいない活動を見付け，自分から朝掃除に取り組む様子が見られるようになった。

【朝掃除に取り組む銀河さん】

また，担任Ａは，「指導内容一覧」シートを基に，各教科等の指導内容を「指導計画Ｂ」シートを用いて，指導の形態ごとに構成した。(【表12】国語の時間で扱う国語に関する内容等，【表13】生活単元学習の時間で扱う国語に関する内容等)

【完成させた計画表を読み，活動を順序立てて話す銀河さん】

物語教材を使って学ぶ国語の時間では，担任Ａは銀河さんに対して，主人公の行動について順序に沿って理解できているか確認する発問をしたり，第３学年及び第４学年の漢字が含んだ個別の学習プリントを用意したりといった個別の支援を行っていた。生活単元学習においても，「指導計画Ｂ」シートを基にした個別の支援を行うなど，授業を改善し続ける担任Ａの姿が見られた。

【表12】銀河さんの「指導計画Ｂ」シート（２学期）　※国語の時間で扱う国語に関する内容等のみ抜粋

学期はじめの様子	目指す姿	支援方法
思いつくままの事柄を丁寧な言葉で話す	話す事柄を順序立てて話す	・教師が「～をして～をしましたか」の問いかけをする ・２枚の白い紙を用意し，二つの事柄を伝えることを理解できるようにする
興味関心のあることを記憶にとどめておく	大事なことを落とさないようにしながら注意深く聞く	・教師からの問いかけに答えられなかったときは「もう一度話してください」と聞き返す
活動の全体像あるいは一部のみをとらえて構成する	事柄の順序に沿って構成する	・教師が「～をして～をしましたか」の問いかけをする ・２枚の白い紙を用意し，二つの事柄を伝えることを理解できるようにする
活動の全体像あるいは一部のみを書く	「～をして，～をしました」のように２つ以上の活動を順序に沿って書く	
内容の大体を読む	「～をして，～をしました」のように２つ以上の活動をつなげて読み取る	
登場人物の行動を読む	登場人物の行動から分かる様子について，教師の説明を聞いて理解する	・行動から分かる様子についてイラストをまじえて説明する
「誰が」が人を表し，「何をした」は行動を表すということを理解している	「誰が，何をした」を続けて書いたり読んだりして，主語と述語との関係を理解する	・活動後の作文指導において，教師が意図的に問いかけたり，定型的な文章を書くように指導したりする
第２学年までの漢字の読み・書きともに理解し，文の中で使う	第３学年及び第４学年の漢字30文字を読んだり書いたりする	・国語の時間と朝学習，家庭学習の連動を図る

【表13】銀河さんの「指導計画Ｂ」シート（２学期）　※生活単元学習の時間で扱う国語に関する内容等のみ抜粋

学期はじめの様子	目指す姿	支援方法
思いつくままの事柄を丁寧な言葉で話す	話す事柄を順序立てて話す	・教師が「～をして～をしましたか」の問いかけをする ・２枚の白い紙を用意し，二つの事柄を伝えることを理解できるようにする
興味関心のあることを記憶にとどめておく	大事なことを落とさないようにしながら注意深く聞く	・教師からの問いかけに答えられなかったときは「もう一度話してください」と聞き返す
活動の全体像あるいは一部のみをとらえて構成する	事柄の順序に沿って構成する	・教師が「～をして～をしましたか」の問いかけをする ・２枚の白い紙を用意し，二つの事柄を伝えることを理解できるようにする
内容の大体を読む	「～をして，～をしました」のように２つ以上の活動をつなげて読み取る	

交流学級で過ごすことが多い仙太さんの担任Ｂは，作成した「交流学級担任，教科担任打合せ資料」シートを基に，交流学級担任と今後の指導や支援についての打合せをあらためて行った。年度当初

に，特別支援学級担任と各学年の交流学級担任との担任連絡会を行っているものの，指導計画シートの作成を通して仙太さんの交流及び共同学習等のねらいが明確になったことから，あらためて打合せを行ったものである。打合せをあらためて行ったことにより，担任Ｂと交流学級担任は共通の視点で仙太さんを理解した上で，共通の支援を行うことにつながった。また，担任Ｂと交流学級担任は，職員朝会後に職員室や廊下で打合せを行ったり，放課後の職員室で仙太さんの様子について頻繁に語り合ったりする様子も見られた。

担任Ａ，担任Ｂともに，11月下旬頃から対象児童の様子を振り返り，「指導計画Ａ」シートや「指導計画Ｂ」シートによる評価を行い，今後の指導・支援について検討を始めていた。

以下，個別の指導計画による指導と評価・情報共有にかかわって，担任Ａと担任Ｂ，交流学級担任からの意見である。

◎「指導内容一覧」シートや「指導計画Ｂ」シートを作成したことにより，授業における指導・支援が明確になり，指導・支援の妥当性を振り返りながら授業を改善しようとすることができた
◎今までは，各教科等の指導内容が明確でなかったことをあらためて感じた
◎「指導計画Ａ」シートを作成したことにより，対象児童が自分の力を発揮してよりよく生活すること，それについての指導・支援をしなければならないことをあらためて感じた
◎「交流学級担任，教科担任打合せ資料」シートを作成したことにより，ねらいや支援方法が明確になり，交流学級担任との一貫した指導・支援につながった
▲保護者や関係機関との打合せや連絡の際にも，各シートをもっと使えばよかった
▲「交流学級担任，教科担任打合せ資料」シートを基に取り組んだことを，どのように記録すればよいのか分からなかった

ウ　個別の指導計画による評価・記録の蓄積

冬休み前に担任Ａは，評価や学期末の様子を加えた「指導計画Ａ」シートと「指導計画Ｂ」シートを通知票にファイリングして，期末面談時に説明を加えながら，銀河さんの保護者に手渡した。その後，担任Ａは，「指導計画Ｂ」シートにおける学期末の様子を踏まえた上で，「指導内容一覧」シートの各教科等の年度末の様子を想像しながら，冬休み後の単元や授業を計画していった。また，銀河さんは第６学年であることから，来年度の進学にかかわって３学期には体験入学が予定されている。そこで担任Ａは，保護者の了解を得た上で，「指導計画Ａ」シートと「指導計画Ｂ」シート，「フェイスシート兼家庭環境調査票」シートを進学先の学校に持参し，体験入学や進学にかかわっての打合せを行った。

担任Ｂは，通常の学級の通知票に，評価を加えた「指導計画Ａ」シートをファイリングして，期末面談時に説明を加えながら，仙太さんの保護者に手渡した。

また，担任Ａ，担任Ｂは，「資料編」を参考にして，「指導計画Ａ」シートや「指導内容一覧」シートの内容が，指導要録の各教科・特別活動・自立活動の記録の欄に記載できることを確認した。

以下，個別の指導計画による評価・記録の蓄積にかかわって，担任Ａ・Ｂからの意見である。

◎作成したシートが通知票になるし，各シートの内容を指導要録に転記すればよいので，効率的だと思う
◎必要なシートを選んで，進学先などの外部への資料とすることができるのでよいと思う
◎本校では，これまでもファイリング形式の通知票に取り組んでいたので，今回の取組に違和感がなかった
▲本校では，それぞれの年度のファイリング形式の通知票を，さらにファイリングしている。そのことを「資料編」に盛り込んでもよいのではないだろうか

(3)　盛岡市立上田中学校における実践

ア　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた個別の指導計画の作成

担任Ｃは，徳志さん（仮名）が在籍していた小学校の担任から引き継いだ個別の指導計画を基に，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の資料編を読みながら，ディジタルデータ編の各シートを作成し始めた。

担任Ｃは，徳志さん（仮名）が，下学年や特別支援学校（知的障がい）の各教科の内容を学ぶことが適切であることから，「指導内容一覧」シートで指導内容を確認した上で，自分が担当する数学の「個別の指導計画Ｂ」シートを作成した。小学校の担任から引き継いだ個別の指導計画が参考になるものであったことから，担任Ｃは，主に，「指導内容一覧」シートや「指導計画Ｂ」シートにおける目指す姿や支援方法の検討に重点を置いて作成することができた。

【表１４】 徳志さんの「指導計画Ｂ」シート（２学期はじめ）　※数学の時間で扱う数学に関する内容（数と計算に関する領域）のみ抜粋

学期はじめの様子	目指す姿	支援方法
繰り返し学習する環境では，１位数どうしのたし算を，正しく計算することができる	正負の数の意味を理解し，２位数どうしのたし算を正確に計算することができる	・易しい問題から取り組み始めることができるように，問題やプリントを準備する ・視覚的に理解しやすい教材・教具を提示する ・計算方法や手順をキーワードを使って教える
かけ算では，九九表を使いながら２の段，５の段の計算をすることができる	かけ算において，理解できる段を増やし，生活場面で活用する	・本人の生活に結び付きやすい問題を提示する ・日常生活の中で，かけ算が必要な場面を取り上げたり，設定したりする

以下，個別の指導計画の作成にかかわって，担任Ｃからの意見である。

◎小学校から引き継いだ個別の指導計画に記載されている，昨年度終わりの様子や，これまで有効だった支援方法などを参考にすることができた

◎引き継いだ個別の様式が，今回使うものと同じ様式だったので活用しやすかった

◎小学校や支援学校の指導内容が，データベース化されているので，勉強になるし，作成しやすかった

▲「指導内容一覧」シートは，セルが細すぎる

イ　個別の指導計画に基づいた指導と評価・情報共有

２学期になり担任Ｃは，予定している数学の単元である「正負の数」における，徳志さんの目指す姿と支援方法を検討した。（【表15】）そして，【表15】の徳志さんの目指す姿と支援方法を基に，第１時の目指す姿と支援方法を検討した。（【表16】）

【表15】単元「正負の数」における徳志さんの目指す姿と支援方法

単元における目指す姿	支援方法
正負の数の意味を理解し，２位数どうしのたし算を正確に計算することができる	・繰り上がりのない１位数どうしの計算から始める ・本人の生活に結び付きやすい題材を提示する ・計算の仕方を分かりやすく理解できるように「まぜまぜ作戦」，「けしけし作戦」の２つの方法を示す ・計算操作を視覚的に理解できるように，正の数と負の数を色分けした図を使用して伝える

【表16】「正負の数」第１時における徳志さんの目指す姿と支援方法

第１時の目指す姿	支援方法
繰り上がりのない１位数どうしのたし算を，正確に計算することができる	・「まぜまぜ作戦」，「けしけし作戦」の２つの方法を，教師と一緒に確認する ・正の数は赤，負の数は青で色分けしながら数直線等で表す ・式に対応させた図等を記入できるプリントを用意する

第１時，担任Ｃは，正の数を赤，負の数を青で色分けした数直線を使って説明した。そして，担任Ｃが，温度計とテレビ番組の天気予報の一場面の写真を提示したところ，徳志さんは，「今日の最低気温は，マイナス３度です。」と話し始めた。そこで，担任Ｃは「マイナス３度は，０度より寒いですか。」と聞いた。徳志さんは「寒いよ。」と体を震わせる様子をまじえながら話した。天気予報の一場面の写真には，どこにも温度を示していなかった。正の数を赤，負の数を青で色分けしたことが，徳志さんが以前見たことのあるテレビ番組の天気予報を思い出させることにつながったものと思われた。

その後，担任Ｃは，加法であれば「まぜまぜ作戦」，減法であれば「けしけし作戦」ということを，黒板に貼った数直線を使いながら説明した。最初の１問は担任Ｃがやってみた。２問目から５問目までは，担任Ｃが徳志さんや他の生徒に聞いたり，数直線を使いながら教師と生徒が一緒に「まぜまぜ」，「けしけし」と言ったりしながら，繰り上がりのない１位数どうしのたし算を計算した。

６問目からは，学習プリントを使って，順番に解いていった。徳志さんの学習プリントは，Ａ４版の用紙に２問ずつ示されたものであった。これは，２問解ければ１枚のプリントを終えたという達成感を味わうことができるようにするため，誤って解いたとしても早めに教師があらためて指導することができるようにするためという配慮からであった。学習プリントには，１問ずつに数直線が示されており，徳志さんは自分で「まぜまぜ」，「けしけし」と言いながら問題に取り組んでいた。

【学習プリントの問題に取り組む徳志さん】

授業後，担任Ｃは，徳志さんの学習の様子を振り返り，支援方法が有効であったことから，次の時間も同様の支援方法を用いることにした。（【表17】）

【表17】「正負の数」第２時における徳志さんの目指す姿と支援方法

第２時の目指す姿	支援方法
繰り上がりのない１位数と２位数のたし算を，正確に計算することができる	・数が大きくなったり，小さくなったりしても，「まぜまぜ作戦」，「けしけし作戦」が使えることを教師と一緒に確認する ・正の数は赤，負の数は青で色分けしながら数直線等で表す ・式に対応させた図等を記入できるプリントを用意する

第２時以降，徳志さんの学習に取り組む様子は，学習が進むにしたがって，さらに意欲的になっていった。単元後には，繰り上がりのある２位数と１位数のたし算を，正確に計算することができるようになった徳志さんであった。

後日，担任Ｃは，社会の教科担任Ｄとの打合せの際に，数学での徳志さんの様子を話題にした。二人は，数学での取組が社会でも生かすことができないか考え，キーワードでの声がけを取り入れることにした。

【打合せをする担任Ｃと，社会の教科担任Ｄ】

以下，個別の指導計画による指導と評価・情報共有にかかわって，担任Ｃと，社会の教科担任Ｄからの意見である。

◎通常の学級では，一人一人に指導内容を考えることは難しいが，特別支援学級では必要なことだと思った
◎個別の指導計画を，授業で活用するというイメージをもつことができた
◎最初に「指導内容一覧」シートや「指導計画Ｂ」シートを作成しておくと，単元や授業での目標が明確になったり，一貫したものになったりすることが分かった
◎単元後や学期末などの学年団での話し合いで，個別の指導計画が資料として活用できた
▲年度途中からの取組だったために，教科担任全員と同一歩調で取り組むことができなかった。年度当初に「指導内容一覧」シートができていれば，「指導計画Ｂ」シートは各教科担任が作成でき，年間を通して確認しながら授業に生かすことができたと思った
▲特別支援学級担任であれば手立ての視点を持ち得ていると思うが，通常の学級担任で教科のみを特別支援学級に教えに来ている先生だと，手立てを設定するのが難しいと思った

ウ　個別の指導計画による評価・記録の蓄積

担任Ｃは，「正負の数」の単元終了後に，徳志さんの学習の様子を踏まえて評価を行い，「指導計画Ｂ」シートに記録した。(【表18】) 他の教科については，各教科担当が記録した。学期末には，特別支援学級担任による学年会において，作成した「指導計画Ｂ」シート等をもとに，それぞれの学級の生徒の学習の様子などを交流し，３学期の取組の方向性を共有した。

盛岡市立上田中学校では，別様式で通知票を作成していたことから，作成した「指導計画Ｂ」シートを通知票として，保護者に配布・説明をすることはしなかった。

ただし，担任Ｃは，資料編を読み，「指導計画Ｂ」シートの学期末の様子やそれ以降の指導の成果を基に，「指導内容一覧」シートの年度末の様子に【表19】のように記録すればよいということ，それを指導要録の様式２の各教科・特別活動・自立活動の記録欄に記載すればよいということを理解した。

【表１８】 徳志さんの「指導計画Ｂ」シート（２学期末）　※数学の時間で扱う数学に関する内容（数と計算に関する領域）のみ抜粋

学期はじめの様子	目指す姿	支援方法	学期末の様子
繰り返し学習する環境では，１位数どうしのたし算を，正しく計算することができる	正負の数の意味を理解し，１位数どうしのたし算を正確に計算することができる	・易しい問題から取り組み始めることができるように，問題やプリントを準備する ・視覚的に理解しやすい教材・教具を提示する ・計算方法や手順をキーワードを使って教える	気温と結び付けながら，正負の数の意味を理解し，繰り上がりのある２位数と１位数のたし算やひき算を，正確に計算することができた
かけ算では，九九表を使いながら２の段，５の段の計算をすることができる	かけ算において，理解できる段を増やし，生活場面で活用する	・本人の生活に結び付きやすい問題を提示する ・日常生活の中で，かけ算が必要な場面を取り上げたり，設定したりする	配膳場面と関連付けながら，かけ算の意味を理解することができた １～８の段までの九九を自力で唱えることができた

【表19】徳志さんの「指導内容一覧」シート　※数学に関する内容（数と計算に関する領域）のみ抜粋

教科等		指導内容	年度当初の様子	年度末の様子
数学	数と計算	【中：加法】2位数以下の加法	繰り返し学習する環境では，１位数どうしのたし算を，正確に計算することができる	温度と結び付けたり作業学習と関連付けたりしながら，正負の数や10のまとまりについて理解し，繰り上がりのある２位数と２位数のたし算やひき算を，正確に計算することができた
		【中：乗法】２の段，５の段，３の段の九九	かけ算では，九九表を使いながら２の段，５の段の計算をすることができる	配膳場面と関連付けながら，かけ算の意味を理解することができた １～８の段までの九九を自力で唱えることができた

以下，個別の指導計画による評価・記録の蓄積にかかわって，担任Ｃと，同校特別支援学級担任Ｅからの意見である。

◎シートを作成すると，個別の指導計画になり，それが通知票とか指導要録につながるのでよいと思う
◎学年会や，特別支援学級担任以外の教科担任との情報共有の道具として，指導計画を活用できた
▲指導内容一覧に記載した内容が，指導要録印刷シートに移記されて，そのままプリントアウトできるようになっていてもよいのではないか

(4)　アンケート調査

ア　アンケート調査

「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の有効性と，修正・改善の視点を明らかにするために，研究協力校及び，当センターの研修に参加した教員へのアンケート調査を行った。

アンケート調査の内容と方法，処理・解釈の仕方等については，【表20】に，アンケートの設問については，【表21】に示す通りである。

【表20】アンケート調査の内容と方法

調査内容		対象	調査方法	処理・解釈の仕方
1	・多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の様式についての有効性及び改善点	研究協力校及び当センターの研修に参加した教員	評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問１・７・８）	記述内容から「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の有効性及び修正・改善の視点等について分析・考察
2	・通知票等と連動した個別の指導計画の様式についての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問２・７・８）	
3	・指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項についての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問３・７・８）	
4	・ディジタルデータを用いた効率的な作成と記録の蓄積についての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問４・７・８）	
5	・個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問５・７・８）	
6	・交流学級担任や保護者等との情報共有の手順や留意事項についての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問６・７・８）	

【表21】アンケート調査の設問内容

設問番号	設問内容
1	ディジタルデータ編により，多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画を作成することができたか。
2	ディジタルデータ編により，通知票等と連動した個別の指導計画を作成することができたか。
3	ディジタルデータ編により，特別の教育課程を踏まえた指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項について確認・検討することができたか。
4	ディジタルデータ編は，個別の指導計画の効率的な作成と記録の蓄積につながるものであるか。
5	資料編は，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての理解に資するものであるか。
6	資料編は，個別の指導計画を活用した，交流学級担任や教科担任，保護者，隣接校種，関係機関との情報共有の方法やその具体についての理解に資するものであるか。
7	ディジタルデータ編と資料編のよかったと思われる点は何か。
8	ディジタルデータ編と資料編の改善点は何か。

イ　調査結果の分析と考察

(ｱ)　多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の様式についての有効性及び改善点

【図23】は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）が，多様な児

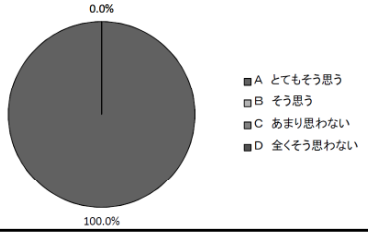
童生徒の教育課程に即した個別の指導計画を作成することに有効であったかについて，その調査結果をまとめたものである。

【設問１】

ディジタルデータ編により，多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画を作成することができたか。

	人数（%）
A　とてもそう思う	14(100.0%)
B　そう思う	0（ 0.0%）
C　あまり思わない	0（ 0.0%）
D　全くそう思わない	0（ 0.0%）

※有効回答数＝14



【図23】多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画を作成することの有効性についての回答状況

設問７による，プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

・小・中学校の指導内容と，特別支援学校の指導内容のすべてがデータベース化されていて，知的障がいのある子どもから，遅れのない子どもまで対応した目標を設定できる。

・「指導計画Ａ」と「指導計画Ｂ」のシートが別れているので，知的発達に遅れのない子どもについて，焦点化した個別の指導計画の作成・活用につながるものだと思う。

設問７による，プラス回答を見てみると，学習指導要領に基づく指導内容をデータベース化したこと，指導計画を組み合わせる様式にしたことについての記述が多かった。

以上のことから，児童生徒の教育的ニーズや，指導目標，指導内容等に即しながら，個別の指導計画を組み合わせて作成することができるような様式により，多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の作成につなげるという「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）の作成意図は，達成できたものと考える。

ただし，設問８において改善すべき点として以下の回答が寄せられた。

・ディジタルデータ編で，どのようにシートを選択したらよいのか，最初戸惑ってしまった。

個別の指導計画の様式を組み合わせて作成することについて，より具体的な例示が不足していたものと思われる。資料編において，具体的な児童生徒の例をまじえるなどしながら，より具体的に示すことが必要であると思われる。

(ｲ)　通知票等と連動した個別の指導計画の様式についての有効性及び改善点

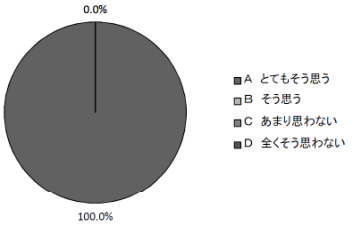
【図24】は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）が，通知票等と連動した個別の指導計画を作成することに有効であったかについて，その調査結果をまとめたものである。

【設問２】

ディジタルデータ編により，通知票等と連動した個別の指導計画を作成することができたか。

	人数（%）
A　とてもそう思う	14(100.0%)
B　そう思う	0（ 0.0%）
C　あまり思わない	0（ 0.0%）
D　全くそう思わない	0（ 0.0%）

※有効回答数＝14



【図24】通知票等と連動した個別の指導計画を作成することの有効性についての回答状況

設問７による，プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

・個別の指導計画の評価が，そのまま通知票と要録に反映されるので効率的である。

・資料編は，通知票だけではなく，指導要録を作成する際にも十分活用できる資料なので，とてもありがたかった。

設問７による，プラス回答を見てみると，個別の指導計画を活用した学習評価が，通知票や指導要録と関連付けられていることについての記述が多かった。

以上のことから，個別の指導計画と通知票，指導要録それぞれの内容と機能を整理し，通知票や指導要録と連動した個別の指導計画の様式を示すという「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の作成意図は，達成できたものと考える。

ただし，設問８において改善すべき点として以下の回答が寄せられた。

・ディジタルデータ編のシートで作成した個別の指導計画が，指導要録のどの欄に位置付くのかが，さらに分かりやすくなるとよいものと思われる。

個別の指導計画の内容が，どのように指導要録に位置付くのかについて，資料編に示していたものの，資料編１頁当たりの情報量が多いことから，見付けられなかったものと思われる。資料編の内容を精選するとともに，資料編の中で関連する箇所に繰り返し示していくことが必要であると思われる。

(ｳ) 指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項についての有効性及び改善点

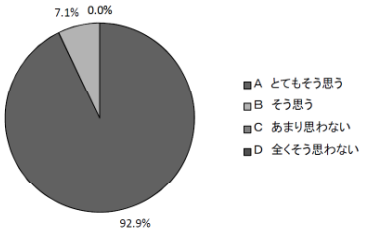
【図25】は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）が，特別の教育課程を踏まえた指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項について確認・検討することに有効であったかについて，その調査結果をまとめたものである。

【設問３】

ディジタルデータ編により，特別の教育課程を踏まえた指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項について確認・検討することができたか。

	人数（%）
A　とてもそう思う	13（92.9%）
B　そう思う	1（ 7.1%）
C　あまり思わない	0（ 0.0%）
D　全くそう思わない	0（ 0.0%）

※有効回答数＝14



【図25】特別の教育課程を踏まえた指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項について確認・検討することの有効性についての回答状況

設問７による，プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

・「指導計画Ａ」シートや「指導内容一覧」シートは，指導内容がリストから選択できるようになっているので，とても便利だと感じた。

・個別の指導計画を作成していくときに，指導の目標（指導内容）等について，どのように記述していけばよいのか分からなかったり，迷ったりしていたので，選択できるようになっていることが，とても参考になるし，作成しやすい。

・個別の指導計画を作成するとき，個人の主観や個人のやり方に任せられており，このような内容で大丈夫かと思いながら作成していた私にとっては，このようなシートや資料は，作成する際の根拠となっていく。

設問７による，プラス回答を見てみると，学習指導要領に基づいて指導内容がデータベース化されていることについての記述が多かった。

以上のことから，小・中学校の各教科等と特別支援学校（知的障がい）の各教科等の教科名及び指導内容をデータベース化することにより，学習指導要領を踏まえた指導目標や指導内容を設定することができるようにするという「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の作成意図は，達成できたものと考える。

(ｴ) ディジタルデータを用いた効率的な作成と記録の蓄積についての有効性及び改善点

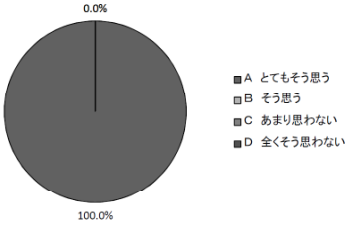
【図26】は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）が，個別の指導計画の効率的な作成と記録の蓄積に有効であったかについて，その調査結果をまとめたものである。

【設問４】

ディジタルデータ編は，個別の指導計画の効率的な作成と記録の蓄積につながるものであるか。

	人数（%）
A　とてもそう思う	14(100.0%)
B　そう思う	0（ 0.0%）
C　あまり思わない	0（ 0.0%）
D　全くそう思わない	0（ 0.0%）

※有効回答数＝14



【図26】個別の指導計画の効率的な作成と記録の蓄積についての回答状況

設問７による，プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

・作成に時間がかかりそうだと思っていたが，指導内容がデータベース化されていたので，意外と早く作成することができた。

・資料編に,ディジタルデータ編を用いた指導計画の作成手順が詳細に記されているために，コンピュータが苦手な人にも，それほど難しくなく操作することができた。

・通知票等に連動した個別の指導計画は,記録の蓄積という意味でも大変有効であると思う。

・思ったより短時間で容易に作成できる。

・個別の指導計画の評価が，そのまま通知票と要録に反映されるので効率的である。

設問７による，プラス回答を見てみると，ディジタルデータを用いていること，個別の指導計画が通知票や指導要録と関連付けられていることについての記述が多かった。

以上のことから，通知票等と連動させながらディジタルデータを用いた効率的な作成や活用，記録の蓄積ができるよう個別の指導計画の様式を示すという「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の作成意図は，達成できたものと考える。

ただし，設問８において改善すべき点として以下の回答が寄せられた。

・ディジタルデータ編による個別の指導計画の作成は,コンピュータが苦手な私にとっても，意外に容易で早くできるので，ディジタルデータ編が，容易に活用できるようなことが分かるような記述が，はじめに示されてあるとよい

・ディジタルデータ編のすべてのシートを作成しなければならないと思ったり，何が必要なシートなのかが分からなかったりした。

これらの回答のように，ディジタルデータ編を用いて指導計画の作成をするに当たって，どのシートを作成すればよいのかが分からなかったり，シートの作成自体を負担に感じたりする教員が少なくないものと思われる。ディジタルデータ編の「トップページ」シートにおいて，どのシ

ートを作成すればよいのかが分かるようにしたり，効率的な作成方法について資料編に示したりすることが必要であると思われる。

(ｵ)　個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての有効性及び改善点

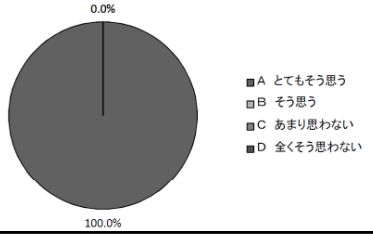
【図27】は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）が，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての理解に有効であったかについて，その調査結果をまとめたものである。

【設問５】

資料編は，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての理解に資するものであるか。

	人数（%）
A　とてもそう思う	14(100.0%)
B　そう思う	0（ 0.0%）
C　あまり思わない	0（ 0.0%）
D　全くそう思わない	0（ 0.0%）

※有効回答数＝14



【図27】個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての有効性についての回答状況

設問７による，プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

・資料編は，手順や留意点が細かく示されていて，担当者一人でも進めることができる。

・資料編には，事例を通して記載例も書いてあるので，サンプルとなる。

・指導計画作成に当たっての手順や留意点が，たくさん明記されているので，とても参考になった。

設問７による，プラス回答を見てみると，資料編に示した，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項を参考にしたことについての記述が多かった。特にも，小・中学校の事例を通して，シートの選択・活用や記載例などがとても参考になるとする記述が多かった。

以上のことから，指導と評価の手順や留意事項，研究協力校による実践を資料編において示すという「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の作成意図は，達成できたものと考える。

(ｶ)　交流学級担任や保護者等との情報共有の手順や留意事項についての有効性及び改善点

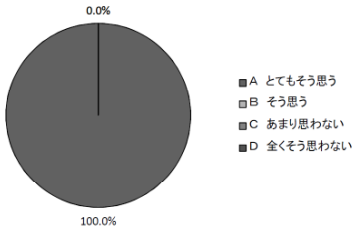
【図28】は，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）が，個別の指導計画を活用した，交流学級担任や保護者等との情報共有の方法やその具体についての理解に有効であったかについて，その調査結果をまとめたものである。

【設問１】

資料編は，個別の指導計画を活用した，交流学級担任や教科担任，保護者，隣接校種，関係機関との情報共有の方法やその具体についての理解に資するものであるか。

	人数（%）
A　とてもそう思う	14(100.0%)
B　そう思う	0（ 0.0%）
C　あまり思わない	0（ 0.0%）
D　全くそう思わない	0（ 0.0%）

※有効回答数＝14



【図28】交流学級担任や保護者等との情報共有の手順や留意事項についての有効性についての回答状況

設問７による，プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

・交流学級担任や保護者，関係機関との具体的な方法が載っているのはありがたい。

・ビジュアル化されていて，情報共有の方法が分かりやすかった。

設問７による，プラス回答を見てみると，資料編に情報共有の手順や留意事項について，事例をまじえながら示されていることについての記述が多かった。また，「交流学級担任，教科担任打合せ」シートの作成が，活動のねらい等の確認・整理につながったという記述もあった。

以上のことから，情報共有の方法やその具体について，研究協力校による実践をまじえながら資料編に示すという「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の作成意図は，達成できたものと考える。

ただし，設問８において改善すべき点として以下の回答が寄せられた。

・交流学級担任や保護者との情報共有の際に，ディジタルデータ編のどのシートを活用するのかについて，もう少し資料編に示されているとよいと思う。

交流学級担任や保護者との情報共有の際の，ディジタルデータ編のシートの選択・活用，留意事項について資料編に示しているものの，紙面の構成が十分に整理されていないため分かりにくかったものと考えられる。資料編に記述する内容の精選とともに，紙面の構成を見やすいものにすることが必要である。

４　実践結果の分析と考察

(1)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の修正・改善の視点

調査結果の分析と考察等を受け，以下の点を「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の修正・改善の視点としておさえた。

ア　多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の様式から

・通常の教育の各教科等で学んでいる児童生徒と，特別支援学校（知的障害）の各教科等で学んでいる児童生徒の例を二つまじえながら，資料編３頁に図や表を用いて示す。（【図29】）

イ　通知票等と連動した個別の指導計画の様式から

・ディジタルデータ編によって作成した個別の指導計画が，通知票や指導要録のどのように位置付くのかについて，資料編３頁や４頁，25頁に示す。（【図30】）

ウ　指導目標や指導内容，支援方法の記述に当たっての留意事項から

・手立てを明確にした支援方法を設定できるよう，手立ての視点を資料編の14頁に示す。（【図31】）

・各教科等の指導内容の一覧を表示できるように，ディジタルデータ編に「資料」シートを盛り込む。（【図32】）

・ディジタルデータ編の「指導内容一覧」シート等のセルの高さを広げて，入力しやすくする。

エ　ディジタルデータを用いた効率的な作成と記録の蓄積から

・ディジタルデータ編において，どのシートを作成するのかが分かるように，使用方法や各シートの選択方法の概要をステップ１～３として「トップページ」シートに示す。（【図33】）

・指導内容一覧において，対象となる児童生徒の指導内容を検討する際に，データベースから選択したり，引継ぎ資料をヒントにしたりするなどの効率的な作成につながる方法を資料編７頁に示す。

・ディジタルデータ編におけるセルの中での改行の仕方について，資料編に盛り込む。

オ　個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項から

・研究協力校における実践を基に，資料編の15～20頁に個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意した点について，さらに具体的に示す。（【図34】）

カ　交流学級担任や保護者等との情報共有の手順や留意事項から

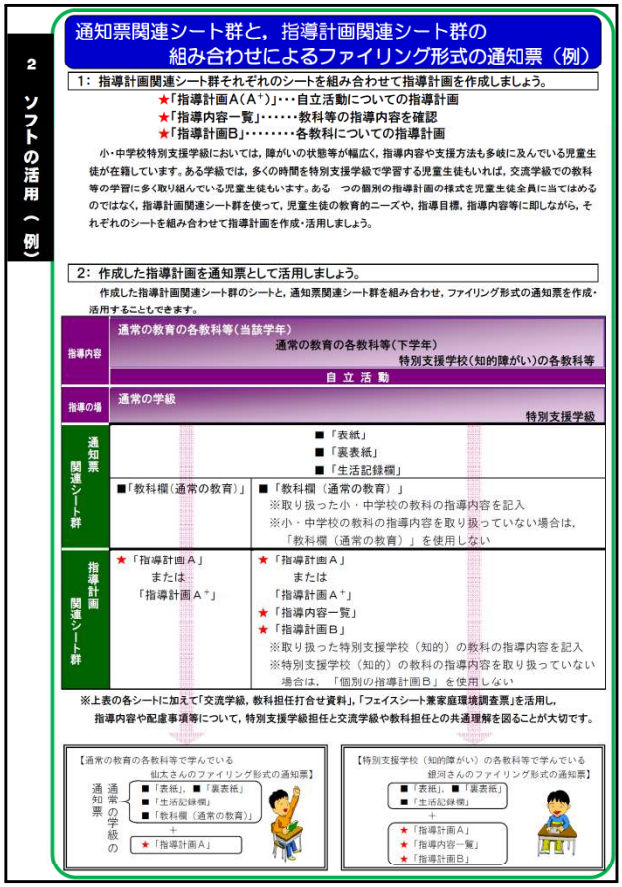
・交流学級担任や保護者等との情報共有の際に，ディジタルデータ編のどのシートを活用するのかを整理した上で，資料編21頁に示す。（【図35】）

・隣接校種や関係機関との情報共有の際に，ディジタルデータ編のシートを活用する際の留意点について整理した上で，資料編22頁に示す。（【図36】）

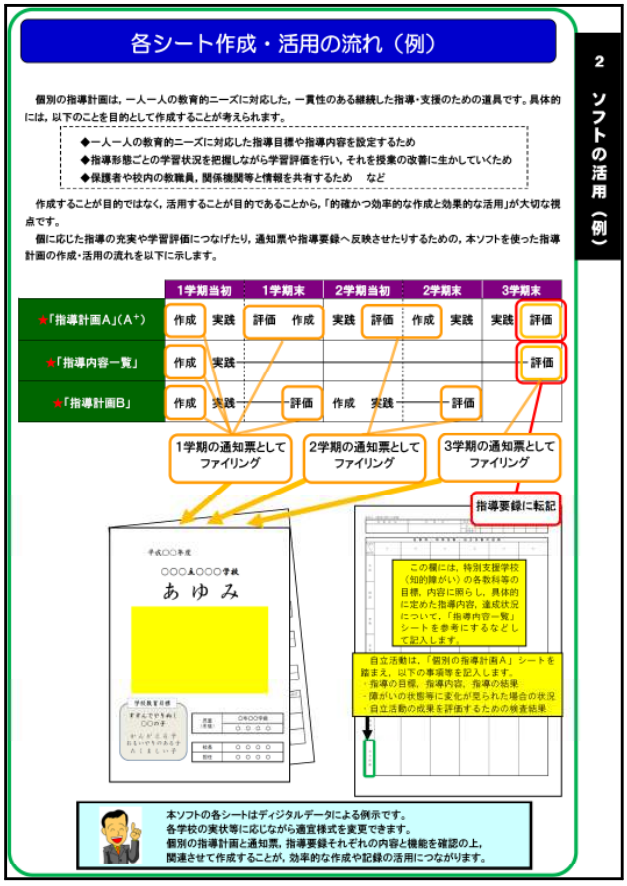
・「交流学級担任，教科担任打合せ資料」シートの記録蓄積等について，資料編11頁に示す。

(2)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」の内容

上記(1)のア～カの視点により，修正・改善を図ったものが，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」のディジタルデータ編と資料編である。



【図29】資料編３頁における，通知票関連シート群と，指導計画関連シート群の組合せによるファイリング形式の通知票（例）



【図30】資料編４頁における，ディジタルデータ編により作成したシートの，通知票や指導要録への位置付け

手立て　その1～その3≒できる環境づくり

その1　**活動の流れ**

活動そのものと前後の活動や，全部行うのか一部だけを行うのか，時間等は適切かなどについて検討しましょう。

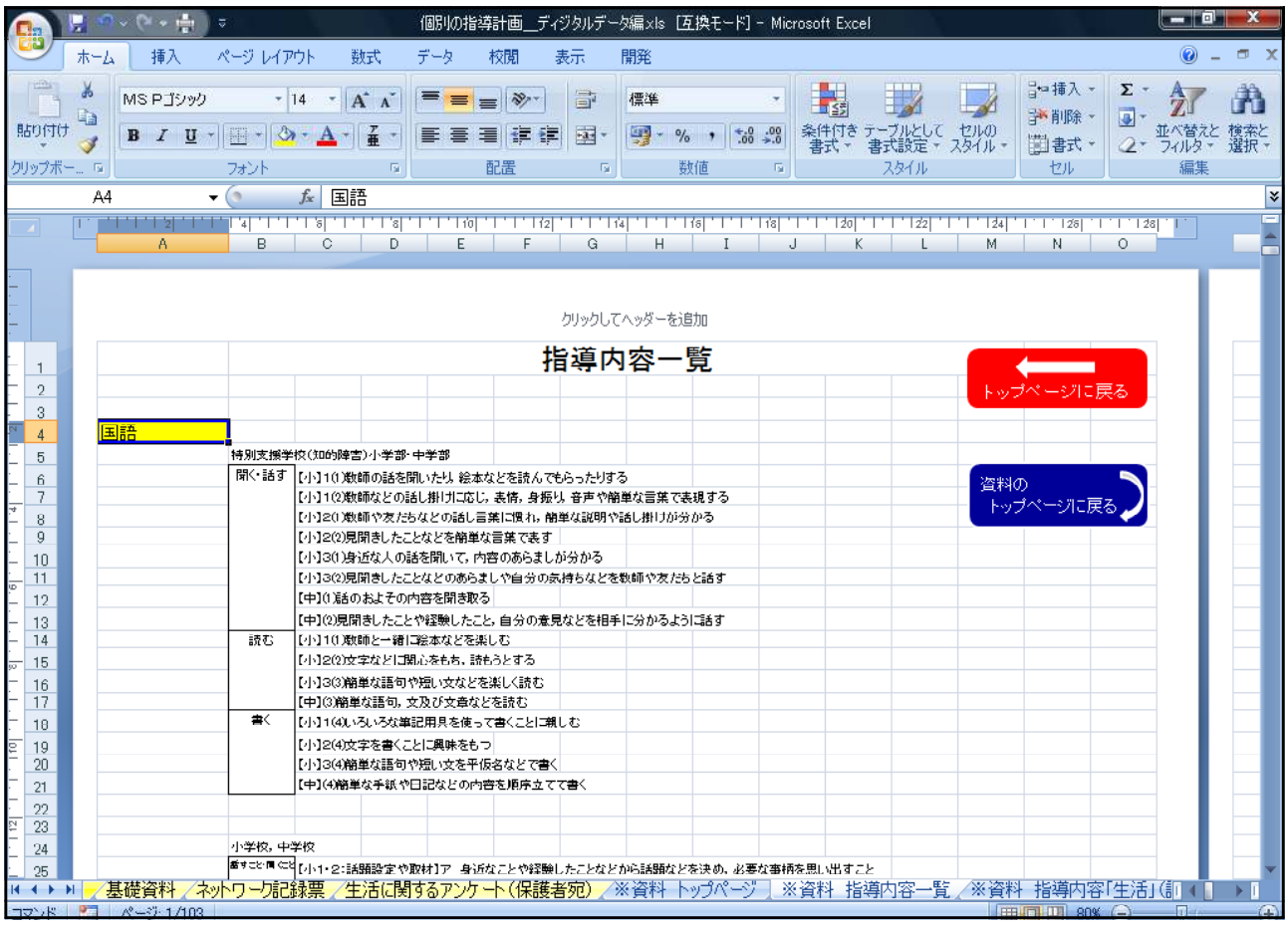
その2　**場・教材教具**

安全面を考慮した上で，児童生徒が取り組みやすくなるための場や教材教具を，検討しましょう。

その3　**教師等のかかわり**

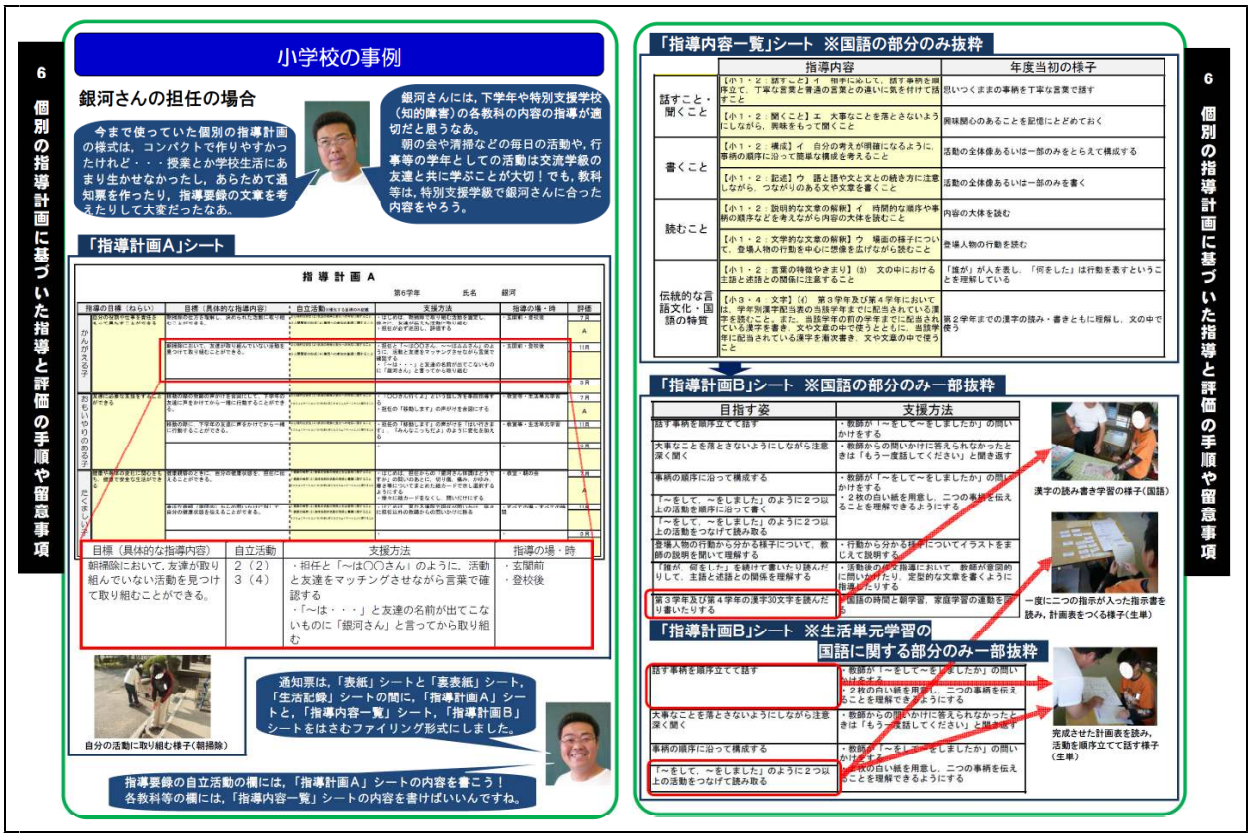
どの程度，どのタイミングでかかわるのか，教師だけではなく友達同士のかかわりも含めて検討しましょう。

【図31】資料編14頁における，手立ての視点

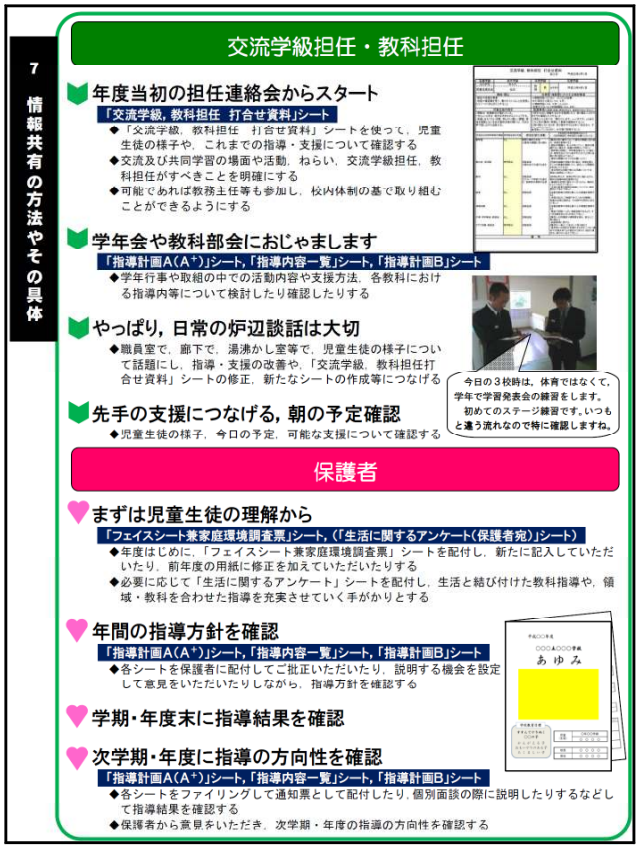


【図32】ディジタルデータ編「資料　指導内容一覧」シート

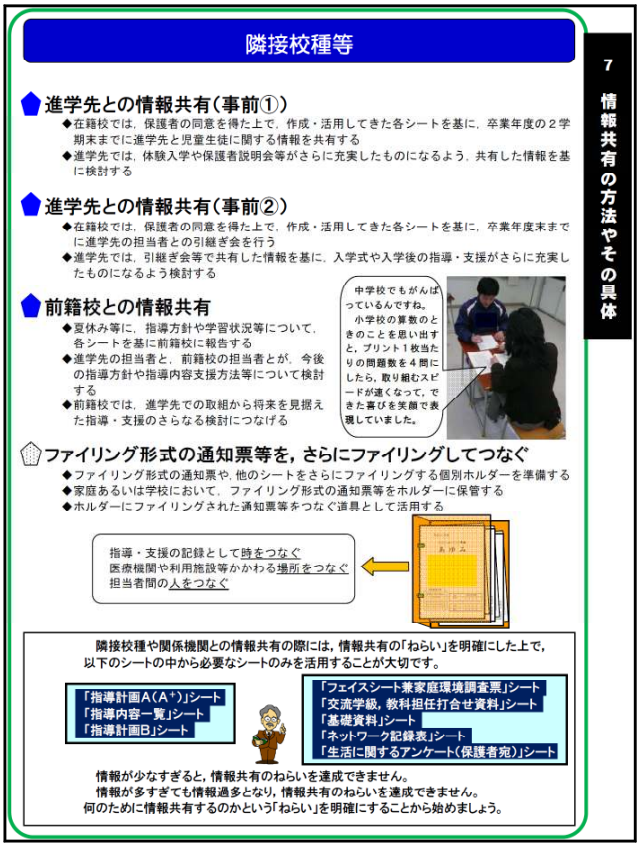
【図33】ディジタルデータ編「トップページ」シート



【図34】資料編17～18頁における，小学校での実践を基にした，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順



【図35】資料編21頁における，交流学級担任や保護者等との情報共有



【図36】資料編22頁における，隣接校種等との情報共有

5　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関するまとめ

ここでは，作成した，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）に基づいた実践結果を踏まえた上での成果と課題をまとめる。

(1)　成果

ア　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）ディジタルデータ編により，多様な児童生徒の教育課程に即した個別の指導計画の作成につながる。

イ　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）ディジタルデータ編により，通知票等と連動した個別の指導計画の作成につながる。

ウ　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）ディジタルデータ編により，特別の教育課程を踏まえた指導目標や指導内容，支援方法の記述にあたっての留意事項について確認・検討することにつながる。

エ　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）ディジタルデータ編により，個別の指導計画の効率的な作成と記録の蓄積につながる。

オ　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）資料編により，個別の指導計画に基づいた指導と評価の手順や留意事項についての理解につながる。

カ　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）資料編により，交流学級担任や保護者等との情報共有の手順や留意事項についての理解につながる。

(2)　課題

個別の指導計画を週案や週計画等に反映させたり，学習指導案に転記したりするなどして，見通しのある効果的な学習指導や学習評価，効率的な事務の改善等について，さらに検討を加えていく必要がある。

Ⅳ　研究のまとめ

1　研究の成果

本研究は，小・中学校特別支援学級において，通知票等と連動した個別の指導計画を作成面・活用面からその要件を探り，実践を通して個別の指導計画の改善につなげていくものであった。

そのために，小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想をまとめた。それに基づき，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）を作成し，作成に係る実践を通して修正・改善を図り，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」ディジタルデータ編と資料編を作成した。

ここで，本研究の成果についてまとめる。

(1)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する基本構想

先行研究や文献等を参考にしたり，特別支援学級の現状を踏まえたりしながら，通知票等と連動した個別の指導計画について作成面・活用面から要件を探ることができ，基本構想としてまとめることができた。

(2)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）

研究の基本構想に基づき，小・中学校特別支援学級の教育課程を踏まえ，通知票等と連動した個別の指導計画の様式，指導目標や指導内容，支援方法等の記述に当たっての留意事項等についてまとめ，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用)」（試案）として作成することができた。また，実践を通しながら修正・改善を図る計画を立てることができた。

(3)　「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を用いた，通知票等と連動した個別の指導計画の作成・活用の実践

「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を使用しながら，研究協力校の教員を対象とした実践を行い，通知票等と連動した個別の指導計画の様式や作成・活用を図ることが個別の指導計画の改善につながる上で有効であるという見通しをもつことができた。さらには，小・中学校特別支援学級において，個別の指導計画に基づいた指導と評価，交流学級担任や保護者等と情報を共有していく手順や留意事項についても明らかにすることができた。また，「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を修正・改善する視点を明らかにすることができた。

特別支援教育の基本的知識の理解を図り，特別支援教育の視点を踏まえた実践への見通しをもち，個別の指導計画による取組に資する上で有効であるという見通しをもつことができた。また，これらを修正・改善する視点を明らかにすることができた。

(4)　実践結果の分析と考察

「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）を使用した研究協力校の教員の意見や実践等から，明らかになったことを踏まえて作成した「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」ディジタルデータ編と資料編を活用することによって，小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に有効であるという見通しをもつことができた。

(5)　小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関するまとめ

「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）に基づいた実践結果を踏まえた上での成果と課題をまとめることができた。

２　今後の課題

本研究においては，研究協力校による「個別の指導計画作成・活用パック（特別支援学級用）」（試案）の実践にとどまっていることから，今後は，さらに県内各小・中学校における実践を通して有効性を検討したり，実践に基づく修正・改善を図ったりする必要がある。

また，小・中学校特別支援学級のさらなる充実を図るためには，教員研修等による教職員の専門性向上や，授業における指導の改善を継続的に積み重ねていくことが必要である。また，人的・物的な環境整備や学校組織マネジメント等についても探っていく必要がある。

＜おわりに＞

この研究を進めるにあたり，ご協力いただきました研究協力校の校長先生をはじめとする諸先生方に心からお礼を申しあげます。

【引用文献】

国立特別支援教育総合研究所（2008),『全国知的障害特別支援学級実態調査　調査結果』

【引用Webページ】

文部科学省　特別支援教育資料（平成23年度）

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2012/06/27/1322974_3_1.pdf

文部科学省　小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）指導要録（参考様式）

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1293813.htm

文部科学省　小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙一覧

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1293807.htm

神奈川県立総合教育センター教育情報共有システムKANA・BOX

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kanabox/modules/myalbum/

【参考文献】

岩手県立総合教育センター（2012),『特別支援学級経営の手引』

岡山県総合教育センター（2012),『特別支援学級担任のためのハンドブック』

奥谷正彦（2010),『特別支援学校におけるセンター的機能の充実に関する研究』，岩手県立総合教育センター

佐々木清悦（2012),『特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する研究』，岩手県立総合教育センター

菅原敦彦（2011),『小・中学校特別支援学級（知的障がい）における領域・教科を合わせた指導の充実に関する研究』，岩手県立総合教育センター

田村典子（2011),『特別支援学校における領域・教科を合わせた指導の充実に関する研究』，岩手県立総合教育センター

栃木県教育委員会（2011),『特別支援学校の小学部児童指導要録・中学部生徒指導要録の手引』

盛岡市立仁王小学校（2011),『新しい教育課程の編成と授業の改善－活用と協働による生きる力の育成－年間指導計画　特別支援教育』